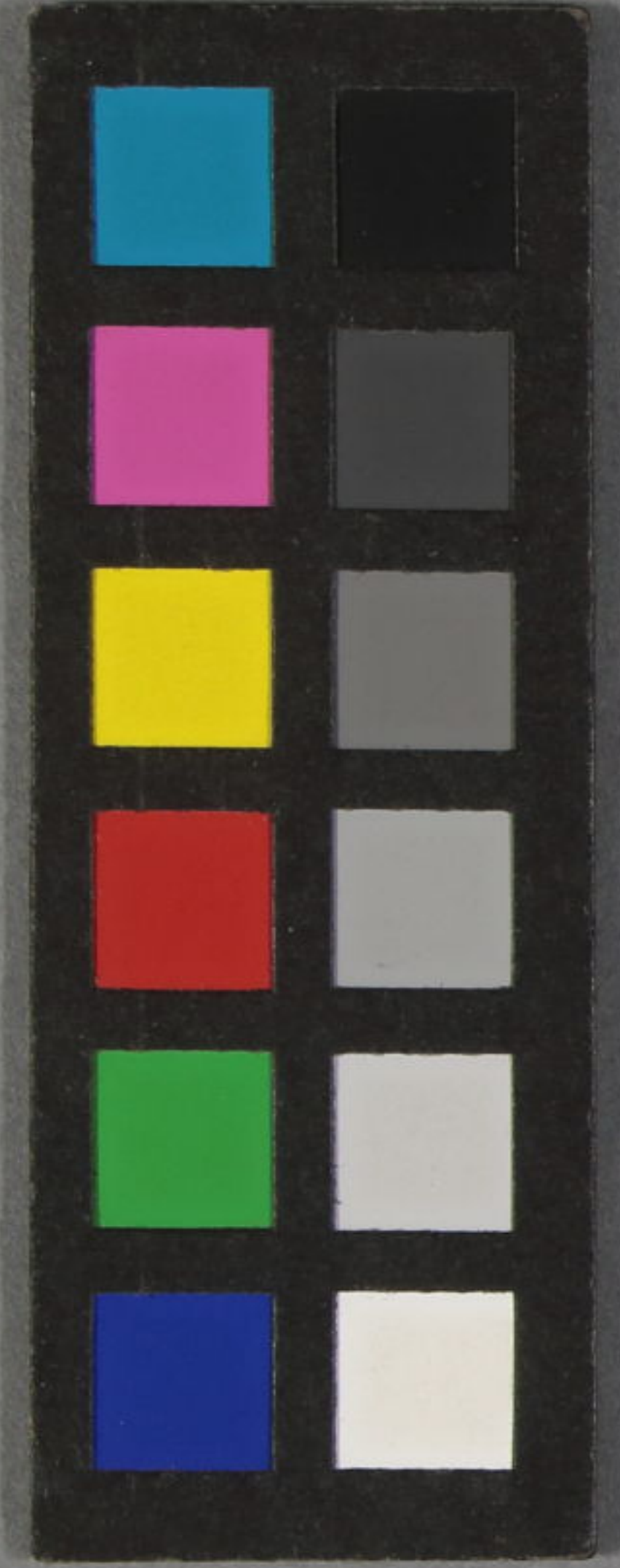


天和板
職原抄支流
全



職原抄支流目錄

卷一

伽耶院藏

攝家之事カケ并

家業カケウ攝政セツセウ

關白クニバク大閣タイカフ

清華之事ヒヨウダ并

家業極位ゴウキ極官ゴクワン

大臣家之事ダイシ并

家業極位ゴウキ極官ゴクワン

羽林家之事ウツリ并

家業極位ゴウキ極官ゴクワン

名家之事メイカ并

家業極位ゴウキ極官ゴクワン

新家之事シンカ

肥近衆之事ヒノチ

羽林名家之外之事ウツリメイカノソノト并

家業極位ゴウキ極官ゴクワン

村田藏書

職原抄

卷二

羽林家并武家任官之次第
攝家任官之次第之事
清华任官之次第之事
公方任官之次第之事
名家任官之次第之事

卷三

八省并唐名職掌之事
諸察并唐名職掌之事
諸職并唐名職掌之事

諸司并唐名職掌之事

衛府并唐名職掌之事

諸國并唐名職掌之事

諸官 同前

卷四

天子踐祚即位大嘗會皇居參内

身殿任官叙位詔書綸旨公宣

宣旨宣命位記勅書震筆行幸

還幸選幸朝勤鳳輦龍蹄御衣

御斂供御御惱崩御奏達奏聞

成原

勅慮 勅使 勅頭 月卿 雲客 對屋 鈞殿 逆鱗 玉体 勅設 勅任 朝餉 御座

院并 太上天皇 仙洞 院參 院使 院幸 夜殿 直宿

親王 并 坊 令旨 御方 行啓 薨御 皇子 諸王 御入内

國母 并 女院 府 門院 外祖 外戚 御息所 北政所 御臺所

長橋局 女奉書 征夷將軍 鎮守府將軍 鎌倉將軍九代 同執權九代 惣追補使守護

尊氏十五代 十一位 二二議一統 御内書 御下文 公恬 御教書 奉行 御成 殿中 御成

打渡 殿中 御成 信長公 他界 管領 四職 御相判衆 上字 維任光秀

秀吉公 卷五

門跡 付 法親王 天台 眞言 修驗者 善法寺

南禪寺 五山 十刹 大德寺 妙心寺

曹洞宗 淨土宗 眞宗 日蓮宗 時宗

國師 大師 長老 古今僧官位 社家

吉田 祭主 賀茂 住吉 社人 裁許狀

宮城殿門圖説

職原抄支流目錄終

職原抄支流卷之一

攝家并家業

一藤 近衛 一藤 九條 一藤 二條 一藤 一條 一藤 鷹司

右五家ヲ攝家ト云フ攝政関白ヲ以テ先途

トシテ不望大政大臣 大化抄ノ以要日政ヲ

攝ト讀テ 天子ニカワリテ万機ノ政ヲ掌ル

ナリ是故攝政ハ 女帝又ハ 幼帝ノ御時ハカ

リ有之 女帝 幼帝自政務ヲキヨシメ玉フ

事不能是ヲ以テ攝政タル人 天子ニカワリ

テ政務ヲツカサドリ玉フ関白ハ関白ト讀テ

天子ノ勅ヲ奉リテ人臣ノ最上トシテ天下ノ
政務ヲトリ行フ職ナリ関白ニ任スルバ人臣ノ
上ニ坐スルニ依テ人ト云フ又殿トモ殿下ト
モ云異朝ニテモ試ノ攝政ハ虞舜也人臣ノ攝
政ノ始ハ周公直ナリ本朝ニテ試ノ攝政ノ始ハ
推古ノ朝ニ聖德太子ナリ人臣ノ攝政ノ始ハ
清和ノ朝ニ忠仁公良房ナリ今ノ攝政ハ忠仁
公ノ例也異朝ニテ関白ノ始ハ漢ノ宣帝ノ
時霍光任之今朝ニテ関白ノ始ハ陽成
院ノ朝ニ昭宣公基經忠仁公ノ弟也余以來攝政関

白彼ノ家ニ博リテ他家ニウツル者ナシ今テ五
攝家モ此御子孫ナリ近衛殿ハ嫡流也九條
殿ハ庶流ナリ近衛殿分レテ鷹司家アリ九
條分レテ一條家一條家アリ此五家高下
ナシ時ノ官位次第ニ上坐アリ攝政関白ハ二
箇年ツ輪任也今ハ鷹司ノ左大臣房輔公
攝政也近衛殿ハ系圖ノ面テ八惣領ナシ王家
ニ名記コレナシ二條殿ハ後光嚴院ノ御宇ヨ
リ正統トシテ攝家ノ名記悉ク二條殿ニアリ
是故ニ代々公方家ノ名記ニ條殿ヲ以テ有

職ノ師範トシ玉イテ諱ノ字ヲ授ケ玉フ攝家トハ
 攝政家ヲ畧シテイエル辞ナリ関白有ル時ハ攝
 政ナレ攝政アルハ関白ナレ何レニテモ一職ツ有之
 モナリ今ハ 幼帝ナル故ニ攝政侍ナリ攝政関白
 名仁藤氏ノ長者又ハ内覧ノ宣旨ヲ蒙ル也関
 白ノ父タル人ヲ太閤ト云フ傳 法躰スバ禪問ト云
 攝家ノ職ハ自神代相傳シ來リ侍ル大嘗會天
 神地祇ヲ名ニ奉ル大事 并ニ神膳ノ儀即位灌ト
 頂ノ大事右品々ヲ傳エテ 天子へ授ケ奉
 ル也其外節會官奏叙位除目ヲ四箇ノ大

事ト名付ケテ代々ノ口決ヲ相傳シテ攝家ノ家
 業トシ玉ヘリ是故ニ攝家ノ仁且讀ト祢スバ不
 學ノ人ハ不許事也

- 一 藤 轉法輪三條 大政大臣 從一位
 - 一 藤 德大寺 大政大臣 從一位
 - 一 藤 大炊御門 大政大臣 從一位
 - 一 藤 今出川 大政大臣 從一位
 - 一 藤 源久我 大政大臣 從一位
 - 一 藤 西園寺 大政大臣 從一位
 - 一 藤 華山院 大政大臣 從一位
 - 一 藤 菊亭 大政大臣 從一位
 - 一 藤 清華 并 家業 極位 極官
- 右七家ヲ清華ト云又ハ華族ノ君達凡云フ大政
 大臣ヲ先途トシテ其職下人ニ師範トシテ四海ニ

儀形タラシクテ有職四箇大夏傳工王佐ノ
オヲタクハエテ政ヲスルヲ家業トシ侍ル也

大臣家 并家業 極位 極官

一藤三條左大臣從一位一藤西三條左大臣從一位一源中院内大臣從一位

右二家ヲ大臣家ト云不歷大將ニテ大臣三至

ルヲ大臣家ト云私ニ曰大臣ニ至ル家々十五家

アリ大臣ニ至リテ大將ヲ兼ル不能ヲバ大臣

家ト云大將ヲ兼大政大臣迄至リテ攝関ヲカ

スル不能家々ヲ清華ト云清華ハ七人ニカキ

ルベカラズ何時ニテモ大將ヲ兼大臣ニ至ル人

アラス是皆清華ナリ大臣家モ如此ナリ今ノ時分大

臣ニ至ル器量又ハ高家久無キニヨツテ右ノ家は

英雄ノ思ヲナセリト云攝家トハ大將ヲ兼大政

大臣ニ至リテ攝政関自ニ至ル家ヲイエリ攝家ヨリ

ハ清華大臣家ヲモ凡人トイヤシメ玉フナリイワヤ

ソシヨリ以下ノ人々ヲ清華大臣家ハ大政ハ攝家

ノ君達ノ攝関ニ至リ玉ハテヲワリ至フ人々ノ子孫也

羽林家 并家業 極位 極官

一藤四辻大納言正二位

一藤飛鳥井大納言正三位

一藤中山大納言正三位

一藤冷泉中納言從二位

源六條 大納言 正二位

藤清水谷 大納言 從一位

藤橋本 大納言 正二位

源綾小路 中納言 正二位

藤松木 大納言 正二位

藤川鯨 中納言 正二位

藤水無瀬 中納言 正二位

藤難波 中納言 正二位

藤四條 大納言 從二位

藤油小路 中納言 正二位

藤阿野 中納言 從二位

藤小倉 大納言 正二位

藤姊小路 中納言 正二位

源庭田 大納言 正二位

藤持明院 中納言 正二位

藤滋野井 中納言 正二位

藤園 中納言 正二位

王白河 參議 從二位

藤鷲尾 大納言 正二位

藤西大路 大納言 正二位

右自先祖經近衛司自中少將昇進侍リテ

大中納言參議ヲ先途トシテ武官ヲ兼叙坊

ヲ帶スル家々ヲ羽林家ト云太納言ニ至リヌ

バ大臣ノ與棄テヨリ節會官養叙位除目以下ノ

公事ヲ行ヒ侍ル故ニ有職故實以テ家業トシ侍

ル也

名家并家業 極位 極官

藤日野 大納言 從一位

藤馬丸 大納言 從一位

藤廣橋 大納言 從一位

藤柳原 大納言 從一位

藤原以

卷之二

藤原 耳露寺 大納言 從一位

藤原 万里小路 大納言 從一位

藤原 中御門 大納言 從一位

藤原 小川坊城 大納言 從一位

藤原 葉室 大納言 正二位

藤原 勸修寺 內大臣 從一位

藤原 清閑寺 內大臣 從一位

藤原 竹屋 參議 正二位

已上十二家

右自先祖文筆ノオヲモト、シ學儒道經歷

辨官ニテ職事ヲ兼ル家々々々名家ト云々名家

ハヤ名ヲ以テ立家ヲ侍ル故ニト二代々之名記ヲ考へ有職故實ヲ兼行ヒ侍ル事ヲ家業トス

羽林名家之外 并家業極位極官

藤原 高倉 大納言 正二位

菅原 高辻 大納言 正二位

菅原 五條 大納言 正二位

藤原 坊城 大納言 正二位

藤原 唐橋 參議 正三位

源氏 五辻 九馬頭 正三位

源氏 竹内 非參議 正三位

藤原 富小路 左衛門 從二位

安倍 土御門 左衛門 從二位

清原 舟橋 少納言 正三位

已上十家

右名家羽林ノ外也此中ニモ名家ニ同隸ノ

家モアリ大中納言ヲ先途トシ或ハ散一位三

位ヲ先途トスル家モアリ然レ庄中少將辨官

ヲ經歷セテハ葺ハ暫日名家羽林ノ外ニ記シ侍ル

ナリ家業モコヲ以テ分別スレシ

新家

- 一藤 松殿
- 一藤 樋口
- 一藤 日野西
- 一藤 東園
- 一藤 裏辻
- 一藤 梅園
- 一安 倉橋
- 一藤 藪内
- 一平 平松
- 一藤 藤谷
- 一源 久世
- 一源 岩倉
- 一源 千種
- 一藤 堀川
- 一平 冷泉下
- 一藤 櫛笥
- 一藤 華園
- 一藤 七條
- 一 塩小路

已上十九家

此新家也當代各本家ヨリ別ニテ家ヲ立ル

輩ヲ新家ト号スルナリ

私曰新家ト云々ニ出來侍ル此ノ外ノ新家

又尤ニ記之此ノ新家ノ内ニテ松殿ハ清花也

断絶スソノ外ハ大中納言參議ニ至ル家モアリ

非參議ニ至ル家モアリ時ニモタガイ其仁ニヨリテ

昇進シ侍ト見ヘタリ

新家

- 一藤 野宮
- 一藤 押小路
- 一源 梅溪
- 一藤 大宮
- 一藤 裏松
- 一藤 池尻
- 一清 伏原
- 一藤 勘解東路
- 一藤 武者小路

一藤 桂

一藤 交野

一平 長谷

一源 龜谷

一藤 町口

一源 東久世

一藤 中川

一 昵近衆

一 日野

一 助修寺

一 四條

一 舟橋

一源 田向

一藤 菌池

一藤 町尻

一源 葛岡

一藤 滋岡

一源 小澤

一藤 細野

一 先代

一 廣橋

一 飛鳥井

一 山科

一 竹内

一藤 山本

一藤 芝山

一菅 若江

一源 愛岩

一藤 風早

一源 佐々木

已上二十九家

一 柳原

一 高倉

一 冷泉

右十二人

同衆 當代

一西 三條

一堀 川

一橋 本

一土 御門

一梅 菌

右五人

已上十七家ヲ

公方ノ昵近衆ト云ヒテ

公方家へ隨昵シテ方克御用ヲ奉仕へ侍

ル方傳養モ多クハ昵近ノ中ヨリ器量ヲ至

ラニテ定メラル物惣ニテ傳養ト云ハ 公方家

ノ傳養ナリシカレモリキクノ事ヲモ養達セ

職原抄支流卷之二

職原抄支流卷之二

任官之次第

一ツシ官ニ任ズルニ羽林家ト名家ノ兩様アリ
 武家ニ專羽林家ノ任シヤウナリ名家ハ文官
 フ經テ昇進セリ羽林家ハ武官ヲ經テ兵仗
 フ帶スルナリ是故ニ今ノ武家ハ羽林家ノ任
 ジ用ニヌ叙笏ヲ帶シテ武ヲタテテ侍ル也
 一武家ハ元來地下ニヌ公卿ニ至ル人少ナリ
 然ルニ等持院尊氏卿ノ嫡孫鹿苑院義満
 公ノ御代ニ至ツテ 公方ト云家ヲ勅許有テ

其身ミミ從シ上位ニ相國ニ至リ家ケ人ヲ大納言ニテニ昇進セシテ源氏ノ長者淳和并テ學兩院ノ別當ラテ攝家ト同等ニテテ武士ノ棟梁ニ成至ヒテヨリ今ニ至ルニテ其例トナリテカワルル也ナシ是故ニ侍ハ生出レ六位相當スル故ニ位官ス六則五位ニ叙ス當時ハ一夫下ノ侍ヲ十位ニ叙列シテ其カ三高位ノ武家ナシ大閤秀吉ハ公ノ御時ヨリ諸大夫ヲ召仕イ至イ任官ノ武家多ク武家ノ官位ハ公家ノ外ナルレ今此ノ書ハ當代ノ武家ノ昇進ヲ先ヅ記シ侍ル也

侍

今六位相當ノ由舊記ニ見テ又ハ倍臣俗又内ト云ハ不然ナリ内裏ニ伺候ス侍ス瀧口院侍ス北面東宮ノ侍ス帶解ト云今コニ侍ト云公方家ノ侍ノ吏ナリ正從五位上下ナリ從四位下ニ叙スハ四品ノ諸大夫ト云武家ハ

諸大夫

武家ハ

諸大夫ト云

武家ハ

侍從

何^カモ地下^カナリ故^カニ地下^カノ諸大夫^カ
ト云^カ是^カ武家^カニ限^カリテノ事^カナリ禁^カ
中^カニ今^カノ諸大夫^カナシ攝家^カ清花^カ
ニ少^カク有^カ之^カ

相當從五位下也^カ文官也^カ今

ノ武家^カノ侍從^カハ大形從四位上

下也^カ唐^カノ名^カヲ拾遺補闕^カト云^カ此

侍從^カハ天子^カノ近習^カニ侍^カリテ

遺^カニ玉^カヲ所^カヲ拾闕^カ玉^カヲ所^カヲ補

人^カハ少納言^カヲ兼^カル也侍從^カハ龍大

臣^カニ至^カルニテモ兼官^カニ侍^カル也口

傳^カ也^カ是^カハ禁中^カニテノ事^カ也武家

ニハ不然也

右 少將

相當正五位下也^カ本式^カニハ右^カ近衛

少將^カト云^カ兵仗^カヲ帶^カシエヒラシ負

甲^カヲ持^カテ宿衛^カシテ

天子^カヲ親衛^カ侍^カル也故^カニ近衛

唐^カ名^カヲ親衛^カト云^カ今^カ時^カノ武家

大形正從四位上^カ下也^カ唐^カ名^カヲ

右 中將

羽林少公又ハ羽林次將

相當從四位上禁中ニテノ様子
少將同事也是モ右近衛中將

上云今ノ武家ハ大畧正四位上

也タトイ中將ニ任ストイハ凡位階

四位上ハ殿上人ト云三位ニ叙ス

六公卿ト云三位中將ハ大臣ノ子

若ハ孫ナラ子ハ三位ニ叙スル也

タハズ公武共ニ同前也今武家

人家越後ノ中將殿ヨリ外ニハ

三位中將侍ラズ是大臣ノ御

子又ハ御孫タルユヘナリ唐名ハ羽

林中即將宰相トモ云フ

參議

相當正四位下又ハ從三位也

參議ニ任ズハ四位ニテモ公卿

ト云況ヤ三位シヤ是ヲ以テ三

位四位ノ差別ヲシラン為ニ位署

書時三位ノ參議ニハ姓ノ朝臣ト

テタトハ藤原朝臣定長ト書

四位ノ參議ニ某ノ朝臣トテ夕
トハ藤原定長朝臣ト書是
ノ俗ニ氏ノ朝臣名ノ朝臣ト云
氏ノ朝臣名ノ朝臣ハ參議ハカ
リニ限也諸官ニ書ベカラス其
外ハ從上位ヨリ以下初位ニ至
テ何モ氏ノ朝臣ニ書是書礼
大事也唐名ヲ諫議大夫ハ
座トモ云定數八人也

中納言

相當從二位也今ノ武家ハ大
形正三位也禁中ニ中納言職掌
ハ上大臣大納言ノ言ヲ下へ上へ納
侍半リ定數八是モ八人也武家ニ
不然也唐名ヲ黃門ト云今ノ中納
言何モ權也大納言同前也公武共
ニ正八近代ハ少キ也

大納言

相當正三位近代ハ正二位モアリ禁中
ニ大納言職掌ハ大臣ト參リテ政
務ヲ聞大臣不參時ハ大臣ニカワ
リテ万事ヲ治メ侍ル也是故唐名

大將

云亞相ト云亞相トハ大臣ニツグ上云心
 也惣メ大納言ハ攝家清花大臣家
 外ハ此官ヲ以先途トス武家ニモ
 公方家ノ外タトヒ御連枝成トイハ
 大納言ヨリ上ヘホルハアタイ侍ラ
 ズ今テ武家又ハ羽林名家其外カ公
 家達皆公方攝家ノ被官同前十
 故ニ大納言ヲ以テ極官トシ侍生
 リ定數十人也武家ニ不然也
 相當從ニ在也是ニ本式ニ有テ
 將ト云武官ノ極官也文官ノ大政
 大臣ニ准ス 公方攝家清花ノ
 外此官ニ在ズ又不能也大臣ヨリ
 相當劣リタレ凡事ノ作法大臣
 ニカワル又ナレ大臣ニハ任ズレハ大將
 ニ至ルハカタクキヲニテ侍ル也禁中
 ニ兵仗ヲ帶シ弓箭ヲ持中少
 將將監等ヲ引具シテ
 天子ヲ親衛侍ル也大將ハ大納
 言大臣迄ノ兼官也攝家ハ多分

左大臣將ヲ兼テカ子 公方攝家清花
久々大納言カ内大臣ノ時カ又右
大臣左大臣迄此官ヲ兼テ子 忍
別大將ヲ兼又ルカ 大ナルキ 規摸也
唐名ハ大樹幕下又ハ羽林大將
軍ト云フ

内大臣

相當從二位近代公正二位モリ
令外ノ官也又ハ負ノ外ノ大臣トテ
職掌ハ侍ニス唐名ハ内府ト云又
臣ノ下也ナ 備以職掌ナシ

右大臣

相當正從二位右大臣禁中ニテ
万政務ヲ掌リ侍ル也左大臣名
白タレ時ハ左大臣ノ讓ヲ得テ一ノ
上ノゴトクニ諸事ヲ掌ル也武家ニハ
不然唐名右府

左大臣

相當正二位近代ハ從一位モアリ
左大臣ハ禁中ニテ諸ノ政奉行ス
左大臣ニハ一ノ上ノ宣下ト云有
第一ノ臣家ナハ官中ノ更悉ク

淑汰侍ル也何^レモ禁中ノ公事
ハ一ノ上參リテ行事也^ト不參多時
ハ次ノ大臣又ハ太中納言モ奉行
スル夏^ニ侍ル是故^ニ一ノ上下号^ニテ
コトニソノ仁撰^ニテ任^ジ侍ル也唐名
尤府

大政大臣

相當從上位文官ノ極官也惣^ジ

テ此官任^ズ人ハ 天子ノ御

師範トシテ一夫四海^ニ此人ヲ以

テ見^キ莫^ホトスル^ニハ此ノ德^トナケル

任^ズル^ノアタハズ^レテ此ノ官ヲ則^テ闕

テラケル故^ニ則^テ闕^ノ官ト云^フ重貴

ベキ官也此官ハ重^キ人ニテア^リ

貴^キキユ^ニ職掌^ハナキ也百有餘

年以來大閣秀吉^ハ公台德院

秀忠公ヨリ外^ニ存生^ノ大政大臣

ノ例ナレ多^ク皆是^レ贈官也近代ハ

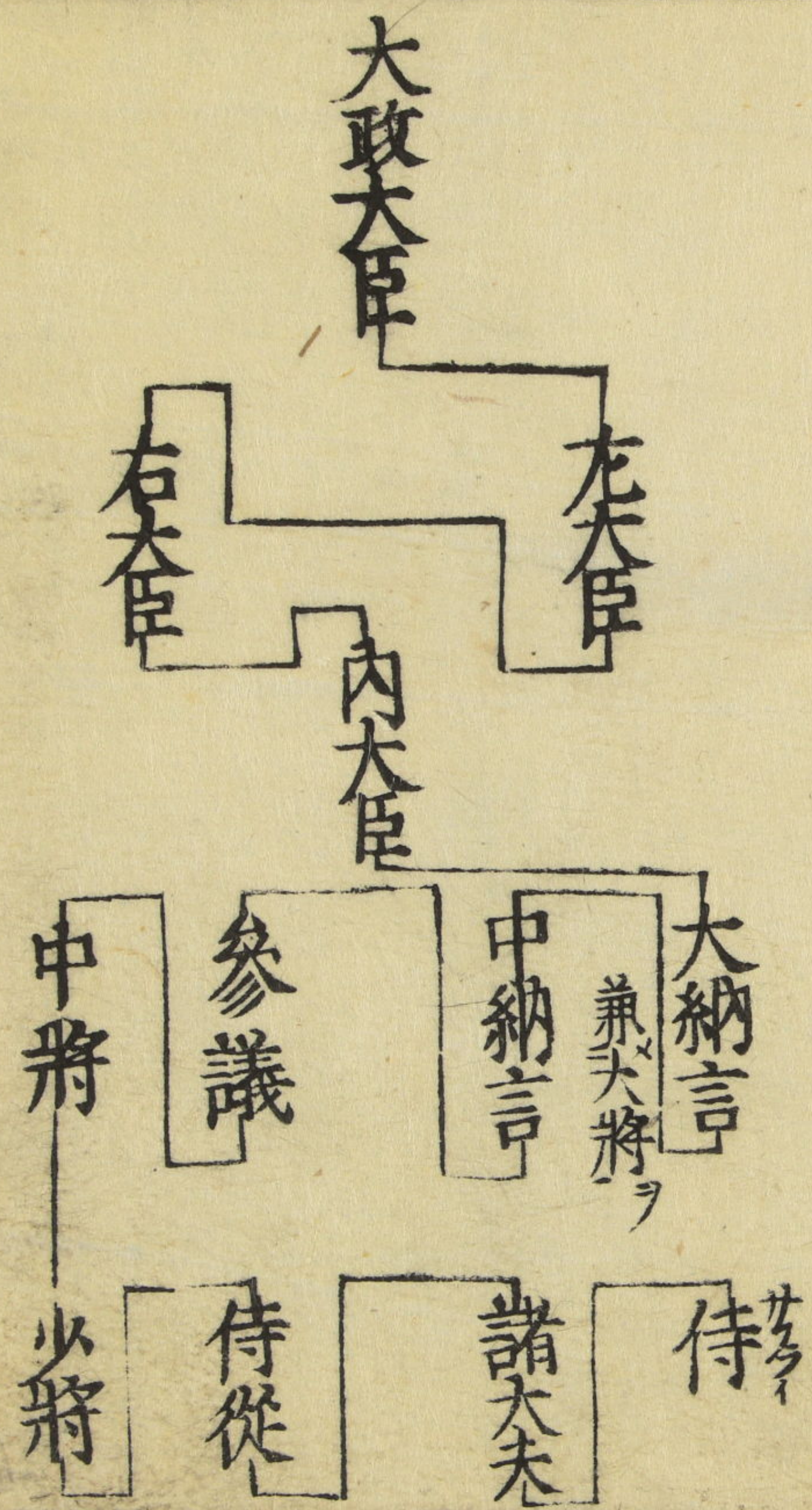
元龍ノ悔^ノクヌカ^カ正^シ位^ト大政大

臣ハ闕^テアル^ト見^ヘタリ大政大臣

職官抄

卷之二

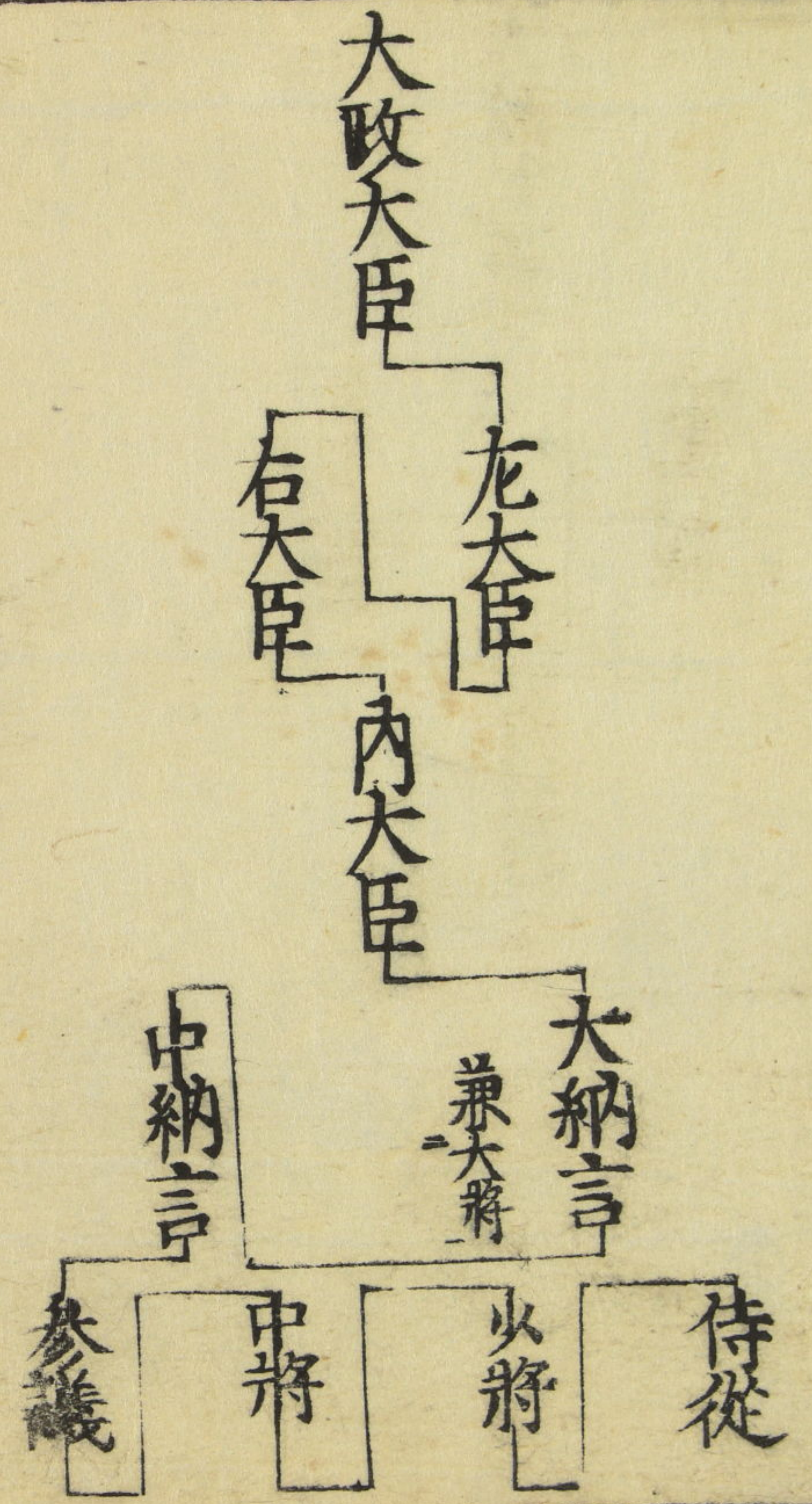
三十一



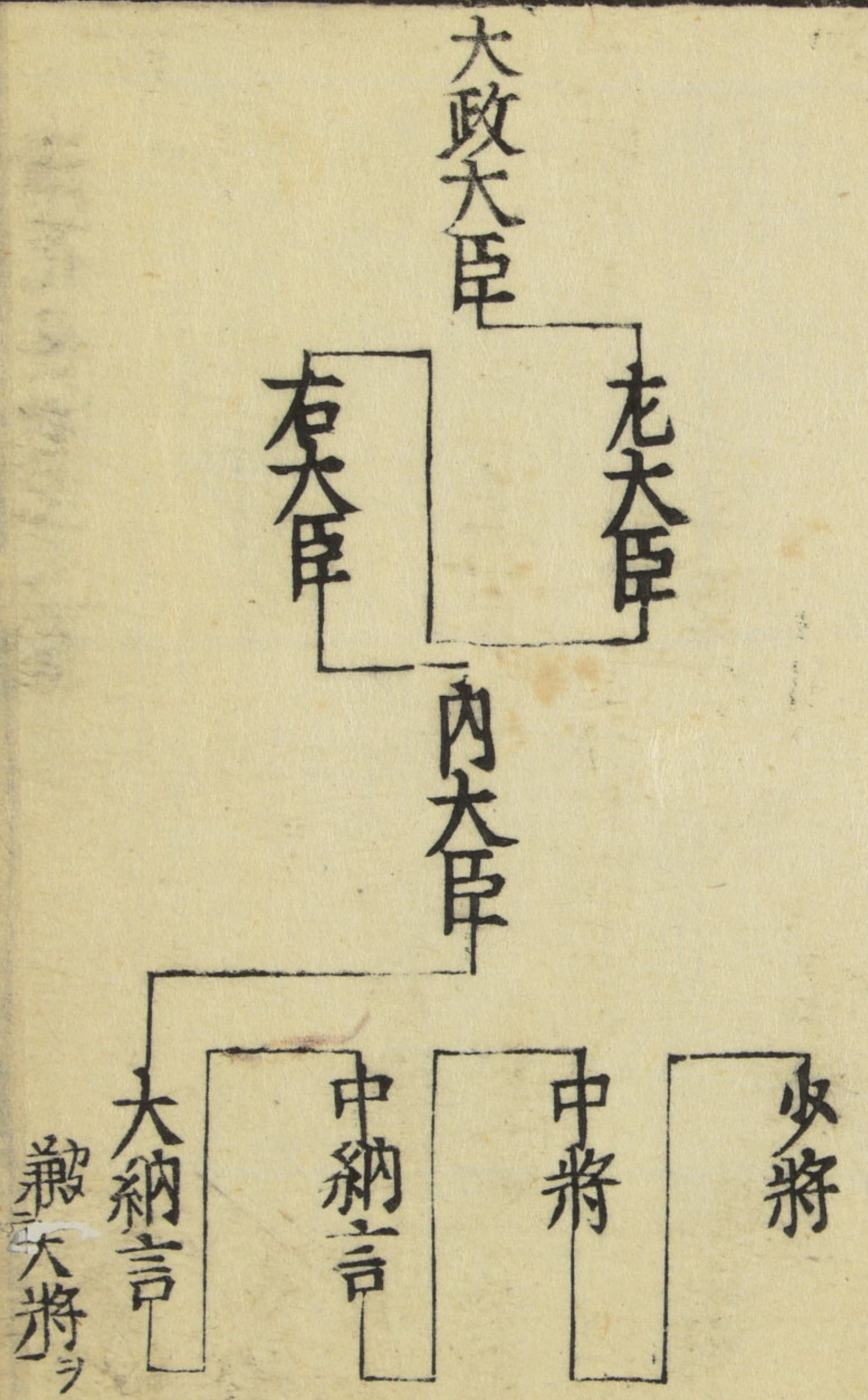
羽林家并武家任官之圖

可混餘官大政大臣ヲ大帥ト云ヘ
 ル御世モアリ唐名ハ相國ト云フ

清花任官之圖



攝家任官之圖



公方家任官之品

職原抄

卷之三

三十一

左大臣

大政大臣

内大臣

大納言

右大臣

兼大將

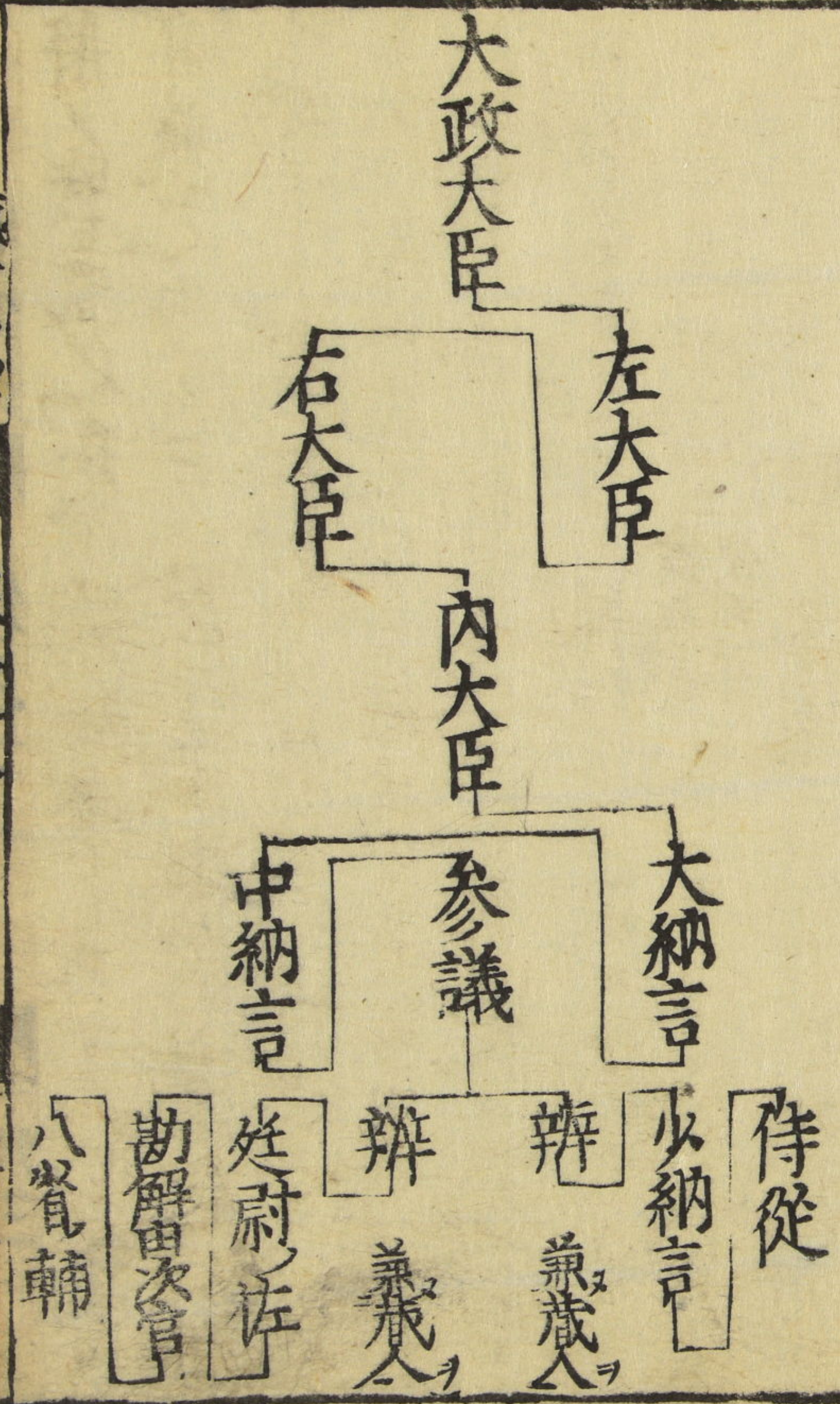
兼征夷大將軍淳和并學兩院別當氏長者
大納言初官トシ玉フ事ハ
大猷院家光
公御元服ノ御時ヨリ如此也

名家任官之次第

一ソレ名家ノ任官之次第ハ侍從ニシテ少將
ヘウツラズシテ少納言ニ任ビ弁ヘウツル也又
少納言ヲ不歴メ直ニ弁ニモ任ジ侍ル也弁
ノ職掌ハ有職古實ヲ考辨テ政教カシ司ル
ナリ
天子ニ近習ノ官也其仁ヲ撰ニテ
任之也唐名ハ尚書ト云權ノ辨右少辨左
中辨右大弁已上七辨弁ニ任スル人ハ必兼
職事職事トハ謂藏人弁ニテ藏人ノ頭ヲ
兼ルヲ頭ノ弁ト云頭ハ二人アリ一人羽林家中

將ノ時兼之、是ヲ頭ノ中將ト云、一人ハ名家ヨ
 リ兼之、弁官ヲ歴テ參議ニウツリ中納言
 大納言大臣ニ任ズルヲ名家ノ任官ノ次第
 ト云フ今禁中ニテモ職事ト弁ヲ云フ傳奏
 ト万事ノ埒ヲ明侍ルニヨツテ當世ハ猶以テ
 重職也又八省ノ輔任ジテ勘解由ノ次官ニ
 ウツリ廷尉佐ニ檢非違使判官任レ五位ノ藏人ニテ弁
 ニ任ジテ頭ヲ經テ參議ニウツル也如此ニ七身
 進レ侍ルナリコレハ公家ノ任官ニシテ武家ノ急
 務ニテアラスカレ氏心得ノ爲ニ記ラシ
 卷之二
 三十一

名家任官之圖



職原抄支流卷之二終

職原抄支流卷之二

四分シ配イ當タ并ニ唐名職掌

ソレ四分ト云ハ凡ソ諸官ニハカニスケゼウサ
クワ下云四ツノ分千有是ヲ四分ト云職掌
ノ多キ官ハ人數モ多カラザレハ不成故ニ四分
有又大小ノ權官モ有役目スクナキハ三分
ナリカニハ長官トテ其官ノカシラ也スケハ次
官トテカミノ役ニカワルゼウハ判官トテ其官
ノ役目ヲカニスケヨリワケテゼウ是ヲツトム
是故ニゼウハニツリゴトビトヨムサクワハ主典

トテツノ官ノ筆取也無官ノ人ハ此四分ノ字ヲ
不書也又唐名ノ夏ハ四分共ニ少々ノカハ
リ侍レ共武家ノ人々トナヘヤスキ為ニ俗ニ呼
付タル計アラハス此四分ノカミスケセウサク
ワシノ字ハ省諸寮諸職諸司衛府諸國ソ
レクニ應文字カリレリ初學ノ為ニ記之號

八省

一八省トハ官人ノ居所ヲ名也又省ヲツカ
サトルトヨミニテ此役ヲツカサドルト云ノ心也
此省ハ有故ハ省ト云諸官ハ多クハ八省

ノ被官也八省ノ親ハ相當正四位也
丞録ハ相當次第ニ劣レリ諸官何モ如此也

中務

中書

中務ハ禁中ニテ女中ノ事ヲ掌ル也七
省ヨリ相當高シ中務親ハ親王ノ任官
ニシテ平人任之例ナシ大輔ヨリ以下公
武凡ニ任之也

式部

吏部

式部ハ文官ノカシラニヌ文官ノ身進事
御悉掌之式部親ハ是モ親王ノ任官

三平人不在之少太輔ヨリ以下誰々
モ任ズル也

治部

禮部

治部ハ寺社ノ事音樂ノ事廂陵等ノ
事禮法ノ事ヲ掌ル也

民部

戸部

民部ハ國々ノ繪圖并民家人畜負數
皆此官ノ掌所也

兵部

兵部

兵部ハ武官ノカシラニテ武家ノ昇進又ハ
軍陳人馬并兵具等事ニテ皆掌也此
卿六親王モ任ジ玉フ也

刑部

刑部

刑部ハ獄ヲ斷リ罪人ヲ刑シ贖銅ナド
事皆掌之但中比ヨリ古ノ職掌多ク
檢非違使ノ別當ニウツル也

大藏

大府

大藏ハ諸國ノ御調物又切府ノ手形
トテ出事ヲ掌ル也

宮内

工部

司農

宮内八百工ノ事ヲ掌ル也又女中メカド方ノ吏シヲモ少々掌ル也

郷キヤウ 大輔タホ 少輔ショホ 丞シヤウ 録ロク

諸寮シヨウリヤウ

一 諸寮トハ右ノ八省ノ多ハ被官ニテ八省ノ職掌ノ内ヲ分テ掌ル之也寮ハツクテトヨム諸寮ノ内ニテモ武家ニ用ル官計ヲアケテ餘ハ墨之諸職諸司モ如此也諸寮ノ頭ハ多分相當五位也

大舍人オホセニ 宿直シュクチキ 又ハ走使ノ事ヲ掌ル也

圖書トウブ

秘書ヒシヤウ

圖書ハ御書物佛像紙筆墨等ノ類ヲ司ル

内藏ウチザウ

倉部クラベ 少府セウフ

内藏ハ御服金銀珠玉等ノ事ヲ司ル也

縫殿ヌイデン

尚衣シヤウイ

縫殿ハ御衣類ヲ裁縫タテ吏ヲ掌ル也

内匠ウチニヤ

少府セウフ

内匠ハ工匠ノ事ヲ掌ル也中比ナカヒヨリ多ハ木工修理此吏ヲ掌ル也

大學

國子

大學ハ學者ニ儒經ヲ教ヘ聖人ノ像ヲ祭ル
等ノ吏ヲ掌ル也

雅樂

雅樂ハ音樂ノ吏ヲ掌ル也

玄籥

鴻臚

玄籥ハ異朝ヨリノ使ノ吏又ハ公寺社ノ事ヲ
掌ル也

主計

度支

金部

主計ハ天下ノ入出ノ帳ヲ記シ御調物度勘定ノ吏也

主稅

屯田

倉部

主稅ハ年貢米ノ事ヲ掌ル也

木工

將作

木工ハ作事ノ吏也
木工ハ作事ノ吏也
木工ハ作事ノ吏也

大炊

太倉

大炊ハ諸國ノ春米雜穀又ハ公私ノ熟食
等ノ吏ヲ掌ル也

主殿

尚舍

主殿ハ殿下ヲ掃除シ燈燭等ノ吏ヲ掌ル也

典藥

大醫

尚藥

職原抄 卷之三 廿九

典藥ハ天子（御藥ヲマゲ又諸人療治藥工
ニ等ノ支ヲ司ル也

掃部カモシ 酒掃サカサウ

掃部ハ掃除又ハ席ヲニキマゲ簾ヲトシカ
クル一ヲ掌ル也

齋宮イハクミ

齋宮ハ伊勢ノ齋宮ニタキ玉ヲ皇太后支司也

右馬ウマ

典厩ウマヤ

右馬ハ天子ノ御馬ノ諸事ヲ掌ル也

兵庫ヒコウ

武庫ブコ

兵庫ハ武具ノ事ヲ掌ル
頭助 尨屬

諸職シヨシヨク

一 諸職トハ公省ノ下諸寮ノ上へ也是故ニ諸職

ノ大夫ハ從四位也職モツカサトヨム

大膳オホテウ

光録ミツロク

大官オホクニ

天子ノ御膳其外神膳等ノ事ヲ司也太
膳ヨリ進取ノ御膳ハヨロソカナルニヨツテ

天子ノキコシ玉ヲ事ナシソクハソムルハカリ
也内膳ヨリソクフル所ノ御膳ヲキコシメ侍也

職原抄 卷之三 廿九

碓京

京兆

馮翊

京所奉行也東西之分テ東京龍京西
京右京堂也

修理

匠作

禁中バカリノ作事修理ノ事ヲ掌ル也

大皇太后宮

天子ノ御祖母ノ事ヲ掌ル也

皇太后宮

天子ノ御母ノ事ヲ掌ル也

皇后宮

天子ノ御后ノ事ヲ掌ル也

中宮

皇后宮ニ同シ皇后宮ノ官アル時ハ中宮ノ
官ナシ中宮ノ官有ル時ハ皇后宮ノ官ナシ同役
ナルガ故也

春宮

春坊

太子ノ夏ヲ掌ル是太子ノ御守也

太夫

亮

大進

屬

或問太夫ヲダイブトヨミスレテ太夫トヨムテ
衛門太夫カサ近サ太夫カ掃部カ太夫カト云アリ

此謂如何谷日官ノ時ハ太夫トヨム諸職ニ限也太夫トヨム時ハ五位ノ一也惣シテ太夫ハ五位ノ通稱也弘安禮節ナドニモ五位ノ夏ヲ太夫トカケリタトハ左衛門尉ハ六位也左衛門尉ニ任シタル人五位ニ叙スル其仁ヲ左衛門太夫ト云源ノ義經ハ左衛門ノ尉ニテ檢非違使ノ判官ヲ兼五位ニ叙シ玉ハ太夫判官ト云尨近將監掃部助モ從六位也五位ニ叙スルハ尨近太夫掃部太夫ト云也其外ニモ太夫ト云ハ五位ト知玉スル古ハ六位田上テ五位ニ叙スルハ田上取レリ今ノ知行取ゴトシ六位ニテハ田上トスズ位相應ニ叙ラトレリ今テ切米取ゴトシ是故ニ五位ニ叙スルハ叙爵スル上テ大ニ規模トシ侍心也

諸司

一諸司ハ多クハ八省ノ被官ニテ諸寮ヨリ下計リ是故ニ諸司ノ正ハ相當正六位也職堂モスクナキ故ニ諸司ニハスケナクメ正佐令史三分バカリ也司ハツカサトヨムナリ

隼人

布護

禁中ノ門外ノ固スルヲツカサド也又公行幸ノ時前走ヲ又非常ライミシスル也古ハ隼人ハ大勢コレアリ取分大隅薩摩ヨリ献ズル也此隼人司國々ヨリ上ル隼人ノ奉行也

囚獄

断獄

罪人ヲイミシメトラヘ又ハ籠舎ノ事ヲ司也

織部

織染

御服ヲオリ又ハ染ルヲ司也

内膳

尚食

造酒

良醞

御酒ノ事ヲ司也

采女

古ハ諸國ヨリ采女トテ羨女ヲ御調

物ニ奉ル也采女正ハ其采女ノ奉行也

主水

膳部

上林

水室ノ事御井ノ水汲事正月七種粥

等夏ヲ司也

東西市

市令

京中ノ市ノ夏ヲ掌ル也京ヲニツニ分テ

東京、東ノ市正西、京ノ西ノ市正司也

主膳 典膳

春宮ノ御膳ノ夏ヲ司ル也

正 佐 令史 主殿 典設

主馬 既牧

春宮ノ御馬ノ事ヲ司ル也

首 佐 令史

衛府

一 衛府ハ武官也 兵仗ヲ帶シテ禁中ノ御

上ニテ諸職ト同等也 是故ニ衛府督ハ相

當從四位也 衛府ノ督ハ多ク兼官也

數負ト云フハ則テ衛門ノ事也

右 衛門 金吾 監門

禁中ノ御門ヲモルテ掌ル也 右衛門ト

書テ右ノ字ヲ畧シテ衛門トヨム一習也 右

兵衛モ右ヲ畧メ兵衛ト讀也

右 兵衛 武衛

御門ヲモリ又ハ兵士ヲ門々ハ分テ出入

ヲ撰也 大政衛門同前也 相當同等ナ

レ兵衛ハ衛門ヨリ心持少カキ也

督 位 尉 志

諸國

一 諸國ト云ハ受領ノ吏也受領トハ國司ニ
 成事ト也古ハ國司ノトリ分ハ大國ハ二所
 六段上國ハ二所二段中國ハ二所下國ハ
 一所六段也相當ハ大國ノ守ハ從五位上
 上國ノ守ハ從五位下中國ノ守ハ正六位下
 下國ノ守ハ從六位下也相當モ卑トリ
 也守護ト云ハ夏ハ右大將源ノ頼朝御ヨ
 リ始リタリソノ國ノ五十分一ヲトシリ今
 ノ郡代々官ナドト云トクニテ國司モ守
 護モ其國ノ政務ヲ執行ノ討也八家
 ヲリ佐スルヲ國司ト云武家ヨリヲ多ク守
 護ト云一國ニ國司守護兩人アリテ政
 務ヲ聞侍リレ也武家ハ次第ニツヨ
 ク公家ハ次第ニ衰テ今ハ國司ト云モ
 ノナレ今ノ國主ハ皆守護ト云モノ也ユノ
 ユニ大上中國ノ沙汰ニモ不及ヤウニナリレ

職方外紀

卷之三

時三

也諸國ノ内ニテ常陸上野上総此三箇
國ノ守ハ古ヘヨリ親王ノ任國ニテ平人ノ
任ズル事ナシ今モ其例ニテ此三箇國ヲ
ハ又ニ任ジテ守ニ不任ナリ此三箇國ノ
守ニカギリテ太守ト云親王ノ國ナ故也
守ノ唐名ヲハ太守國宰牧宰刺史ナ
ド、云也近代國守ヲ太守ト云唐名也
諸國ニ四バ分アリ記左

宋 抄 掾 目

ケウ 附 記

鈴印等ノ事ヲ掌ル也 天子ノ寶印ヲ
ツカリ居テ押ナリ又ハ時ヲシラスル鈴ヲツリ
其外道中ニテ傳馬早打ナドノ時ニル鈴ナ
ドラ掌ル也

外記 外史

外記ハ筆取ノ職ナリ禁中ニテ定リタル事ト
又時ニ臨テ有之公事除目 叙位昇位
等ノ事トツカサドル也是故官中ノ有職
故實ヲヨク知テ物能書子ハ不能事也惣シ
テ禁中ニテノ筆取ハ八人生二十人大政官

トテ大臣太中納言カガギ參議辨シトシノ居侍ル所也
ノ所ノ居物ノ書也外記大史ハ其物書ノカ
シラ也右筆ト云一ハ武家ノ筆取ヲ云頼朝ノ御時邦通ト云モ右筆ノ初也禁中ニテ
史官ト云頭ヲ外記官務ト云是皆筆
ヲトレル者ノ名也サクリント云モ其官々々
ニテノ筆取ノ職也

内記

柱下

勅書詔書宣命トテ

天子ヨリ出ル文ノ

監物

城門

禁中ノ門々ノ鑰ヲ司ル役也

彈正

霜臺

憲臺

彈正三ハ

大弼

疏トテ四分アリハ

省ヨリ上也彈正ノ尹ハ親主ナラズテハ任ジ

至フナレ太弼ヨリ以下ハ公武ハ任ズル

也尹ハ相當從上ニ位也此官ニ任ズル人ハ京

中貴賤非禮非義ヲ彈正侍ル也又ハ京中

ヲ巡ルテタス夏ヲ掌ル也

勘解由

勾勘

式原少

式原少

七六

此官ニモ長官次官判官主典トテ四分アリ
諸職ト同等ニテ從四位也一天下ノ勤定ラ
テ滞リナケト点ツカケテ出スラ掌ル也

檢非違使

使廳

別當 佐判官 尉志トテ四分アリ此官

別當ハ一天下ノ惣奉行心ニテ万ノ公事ヲ
断リ刑罰ヲ行フ職成故ニテ外威勢官

也大納言中納言スル人衛府ノ督ヲ兼テ

此官ヲ帶スル也

別當頭アル也別當ハ狹柄ノ外第上ノ大臣帶
之頭弁兼官也弁ニテ藏人ヲ兼タルラ職

事ト云今モ禁中ニテ威勢有ル官也

將監

校尉

此官ハ帶兵仗持弓箭禁中ノ庭上ニテ

守ルリ本式ニ右近衛將監ト云此時ハ唐

名親衛校尉上云大将中將少將堂上

九故ニ御殿ニテ 天子ヲ衛ル也將監

將曹ハ地下ニ御庭ニアリテ衛リ侍

也相當從六位上也

群ヒ記シスル時ニハ武家ノ當要ノ官ヲ計シテハ粹ク拔キテハ職ヲ掌スモ初メ學ブノ心ヲ得ル安キ爲スニ令シ義ヲ解ス職ヲ原ス抄ヲ畧シテ是レヲアラフヲスナリ

職原抄支流卷之三終

職原抄支流卷之四

御代

天子ノ

一ツ天子トハ當今今ヲ申レ奉ル又ハ皇帝ノ

主上上ノ天皇ノ皇ノ御門ノ内ノ御位ノ陛下ノ

一人ハ天子ノ御ノ又ハ攝政ノ又ハトノ申事皆ハ天子ノ御ノ

事也其外多雖有之之思之侍ル御實名ノ

俗ニ名ヲ御ノ諱ト申レ奉ル也公方モ同前也

一御代ヲツギ玉フ皇子ノ内々ニテ御位ニ即セ玉ヲ

ノツ踐祚ト云フ踐祚トハ祚ヲ踐トヨムナリ紫

震殿ヘ出御ナツテ天ト入々ニ知セ玉ヲテ

式々ニ位ニ即セ玉フヲ即位ト云フ日本ノ神々
 即位ノ由ヲ告玉フ夏ヲ大嘗會ト云フ御
 即位七月ヨリ内ナハ大嘗會年内ニアリ
 七月ヨリ以後ナハ大嘗會翌年ニ執行シ
 侍ルナリ御即位大嘗會規式攝関ノ職
 掌ナリ

一 天子ノ御所ヲ禁中禁裡非常又流人ヲ

宮中内裏殿上雲上ナド、申シ

奉ルカリソメニ住玉フ所シ云皇居ト申奉也

衆中ヲ堂上衆ト云御殿ノ外ニ住ニ奉ル

ヲ地下ト云フ御殿ノ縁ニテ昇ラ外ノ昇殿ヲ

聽カルト云御殿ノ内ニテ參ル内ノ昇殿ヲ

聽サルト云内外共ニ何モ昇殿スト云公武

共ニ三位以上ヲ公大臣卿大中納言ト云四位

五位中少將ヲ殿上人ト云位ハ二位ニ位ニテ

公卿ノ官ニ不任非參議ト云惣ジテ位ニハ

昇リ安ク官ニハホリガタレ官ニノボルヲ任ズ

ト云位ニノボルヲ叙スルト云フ

一 勅ヲ奉リテ文子認侍ルヲ詔書 綸旨ハ宣

宣命位記勅書ナド、云何モ奉リ申入ルニ

ヨリテ文言書様大習有之自遊タルヲ御

震筆御震翰勅筆ナド、申也

一行幸トハユキテガイワイストヨム御アルキノ支

也 天子ノ行玉ヲ所ハ幸ヲ受ル故ニ申侍

ル也歸ラセ玉フヲ還幸ト申也 仙洞へ

御出ヲ朝覲ノ行幸ト申レ他ヘウツリ玉フヲ

遷幸ト申也

一鳳輦 御輿ノ支 龍蹄 御馬ノ支 御叙供御 御食ノ支 御惱

天裁 綸言 玉躰 御遊 勅許 勅裁 勅任

勅願 勅使 夫形如此也 勅勅ノ二字ヲ付

侍バ 天子ノ御事也 天子ヲハ龍ニ比天ニ

タトハ口ニタトヘ侍ル公卿ヲ月卿ト云殿上人

ヲ雲客ト云モ右ノ心得也御臺所ヲ臺盤

所御膳所ヲ朝餉評定所記録所女中ノ部

屋ヲ對屋御亭ヲ鈎殿御座所ヲ御座御

寢所ヲ夜殿御番ヲ宿直ト申ス如此ノ類

多シ有増コニ記レ侍ル也

院

一院ハ天子御位ヲガレ至テ申ス也又ハ
 太上天皇 太上帝院 上皇ナド、申奉ル
 御カサリヲシテ玉ハ 法皇ト申也御所ヲバ
 院御所山洞仙院ナド、申也 院御座時
 當今位ヲカレ玉ハ 新院ト申テ前院ヲハ
 本院ト申レ奉ル也

一院へ参ル院参ト云院へ付奉ル公家ヲ院参
 衆ト云フ 院御言葉ヲ奉テ文ニ認メ侍
 ルヲ院宣ト云御使ヲ院使云院ノ他所へ御
 出テ御幸ト申奉ルナリ惣ビテ上古ハ

院中ニテ政務ヲ聞玉フ事ナレ院ノ初ハ冷泉
 院也中古ヨリ政務ヲ院中ニテ聞玉イテ當今
 ハ多クキガゴトシ今ニ至ルニテ其分ニテ侍ル也
 冷泉院ヨリコノカタ安徳天皇後醍醐天皇後村
 上天皇討テ天皇ト申レ奉ル其外ハ皆院号ヲ
 申レ奉ル也

春宮 東宮尾
 書也

一春宮トハ 天子ノ皇子ナド中ニ御世フツガセ玉フヲ
 申レ侍ル又ハ太子儲君ナド、申也東宮ニハ后腹
 皇子ヲ撰テムテ申也御所ヲ坊ト申也東宮

御部屋ニシテスバ坊ト申シ公家ヲハ御方ト云也
太子ノ御言兼ヲ文ニシタスルヲ令旨ト申入宮
々達モ同前

親王并宮

一親主トハ當今ノ御事有時ノ用意ニ皇子ノ中ヲ
撰シテ親主ノ宜旨ヲ蒙ラセ立申也后腹ノ親
王ハ三品ニ叙シソレヨリ次第ニ昇進シ玉フ自餘
四品ニ叙シテ昇進シ玉フ四品トハ四位之事也人臣
ノゴトクニ正從上ト下ノ差別也四位ヨリ一品ニテノホリモ
五品ト云フハ午レ五品スバ無品ト云官ハ彈正形也

務御式部御兵部御十トニ任ビ受領ハ常陸大守
上野大守上総大守ニ任ビ玉フ釋門ニ入テ寺ヲ持
玉ハ法親王ト申シテ門跡ト号スル也門跡ト
五ノ卷ニ奏ク記之宜旨ヲ蒙ルニ一世ノ親王ニ世
親主ト云事有一世ノ親主ハ其身一代ハカリ親
王ト侍ルヲ申入行平業平ノ御父安保親主ノ
コトキ是也二世ノ親主ト申スハ二代ノ間親王ニ
ナリ玉フヲ云定親王ハ親王雲是レハ少成事也
今伏見院殿定親主ニテ永代親王ニテナラセ
侍ル也

皇女親王ノ宣旨ヲ蒙リ玉フ事有リ式子内親王
トドノ類也親王ノ子ハ入臣ニテリ公家衆同前ニ
奉公申スル也親王ノ唐名ヲ竹園ト申ス也

宮トハ 天子ノ位ニモ即セ玉ハズ又ハ親王ノ宣旨モ
蒙リ玉ハズハ悉ク宮ト申ス也又ハ皇子諸王トモ

云一ノ宮ニノ宮トド、申ス也女子ヲバ女一ノ宮
女子ニノ宮トド、申ス也皇子人臣ニテリ玉フ時源

ノ姓ヲタニラツテ人臣ノ官位ヲ昇進シ玉フ姓ヲ
玉フリテ後ハ公家衆ニカワル支トシ惣ビテ皇太子ノ

大臣ニテ至リ玉フハミケル古也多クハ淺信也今
ノ公家衆藤氏外ハ多クハ王孫也皇太子ノ無官

無位ノ時ヲ宮ト申ス也皇太子ノ通称ニテ侍ル也
他所ヘユキ玉フヲ行啓ト申シ死シテヲ薨御ト

云后キモ同前ニ申ス也
國母并后

一國母トハ 天子ノ御母也又ハ 女院皇太后
宮トド、申ス也御子 天子ニシテハリ玉ハ御

母ヲ尊テ院号ヲ蒙ラセ玉イテ何門院ト申
シ侍ル御母方ノ祖父祖母ヲ外祖母ト申ス

惣ビテ御母方ノ御親類ヲ御外戚ト申也

一 后ハ天子ノ御妻ノ夏ナリ后ハ宮中ハ宮后ハ也申也中宮初テ内裏へ参リ玉ヲ御入内ト申セ攝家清花ノ御女后キハソナワリ玉ヲ近代公ガ家ノ御女モ参リ玉ヲ其外ハ女御ハ准后更ニ衣ナド申ス也

一 東宮ノ御妻ヲ御息所攝政関白ノ妻ヲ北政ノ晴ハ公ガ并ニ太臣ノ妻ヲ御慶所ト云フ一 勾當内侍ト内侍掌ノ中第ト臈ヲ云也長橋ノ局ト居侍ルニ長橋ノ局トモ申也

天子へ公方家ヨリ内々ハ勾當内侍ニ

侍ル也是故ニ諸家ヨリモ大取ノ事ハ皆勾當ノ内侍取次也勾當内侍勅ヲ奉リテ書出ス文ヲ奉書ト云沙門醫者等ノ官位多ク内侍ノ取次ニ上郷へ申傳侍也

公方并征夷將軍

一 公方ト云事ハ等持院尊氏公ノ嫡孫鹿苑院義満公比ヨリ初リテ公方ト申也公方タル人必ズ征夷將軍ヲ兼テ王ヲ惣シテ將軍ハ相當從五位上故ニ職ニキレ大ノ字加シハ相當沙汰ナシ鎮守府將軍ハ陸奥ニ居テ遠勅ノ者ヲ平ケリ其

後ハ多ク陸奥守タル人兼之征夷將軍ハ日本
 武尊景行天子皇太子ヨリ始リテ兵事アルトキニソシテ任
 ラルト見ヘタリ文屋綿丸任之入命絶レテ木
 曾尤馬頭義仲義賢次男暫仕之其後權大納言
 右近衛大將源頼朝義朝三男任之長子尤
 衛門督頼家義朝三男卿次男尤大臣實朝公相續傳之
 彼父子ノ戚ニラソレテ外ニ望者ナカリキ父子断
 絶ノ後權大納言頼經卿鎌倉へ下テ任之或
 問曰頼經卿ハ関白道家公ノ四男ニシテ藤氏
 也イカナルユヘニ頼朝卿ノ跡ツグゲルヤ答曰頼

朝卿ノ姉ハ權中納言藤原能保卿室トナル能
 保卿ノ姪後京極攝政良經公ノ室トナツテ光
 明峯寺ノ関白道家公ヲ生リ道家公頼經
 卿ヲ生玉フ頼經卿ハ則頼朝ノ姉ノ孫ナ
 ル故ニ頼朝卿ノ俊室ニ位尼其ヨレニニヨツテ
 頼經卿ヲ申レ下シテ養子トシ玉イテ頼
 朝卿ノ家督ヲ繼シメ侍ル也其子三位中
 將頼嗣任之父頼經隠謀ノ企アリユヘ止
 乏其後後嵯峨院第一ノ皇子中務卿宗尊
 親王鎌倉へ下向シ玉テ任之其子惟康

親王任之ノ父親ノ親王故又止之ノ後深草院第三
 皇子ノ父明親王ヲ申シ下シ任之ノ其子守
 邦親王任之ノ北條高時入道依不義ノ一家滅
 亡シ時此任ラ止ル此ヲ鎌倉將軍九代ト云
 一或問曰世俗流布シ白賴朝ノ八天下取也
 北條家モ九代トガ天下取也ト云此說ニコ
 トスルカ答曰世俗ノ說兩ナガラ非也ト賴朝ノ
 平家ヲ退治シ震襟ヲヤスメ天下無シ為シ歸
 允忠功ニヨシテ平家ノ類ノ領知跡并ニ六

イテハ仙洞ヨリ出國ニ國司アリテ其國ヲ治ス
 也諸事ノ仙洞ヘウカニイテ教慮ニカセ侍ル是
 ヲ以天下取ト云ベキヤウナシ北條ハ遠江守時政
 賴朝ノ御ノ舅ニレテシカモ大忠アリレユニ則チ賴
 朝ノ御ノ代ニ至リテ家ヲ興シ其子武藏守義
 時實朝ノ幼少ノ時ニアタツテ政教ヲ止ル
 二ニ威勢甚シクテ子孫代々ノ威ヲ不ス失レテ
 將軍家ノ執權アリ其子ノ京大夫泰時ノ其子
 相模守時氏ノ其子ノ武藏守經時ノ其第二ノ子ノ近

職原抄

卷之四

九

將監時頼明其西其子相摸守貞時其子相摸

守高時二至ルニテ相續シテ執權タレトモ謙

居テ不_ズ奢位四品ニ不_ズ過シテ身ヲツクシ

民ヲアウレシレカバ是レモ九代ニテタモ千侍

是ヲ鎌倉執權九代ト云頼朝御サヘ天下ヲ

持玉ハズイワシヤ北條ヲヤ其後後醍醐天皇

ノ御時兵部卿護良親王後醍醐第二ノ皇子大塔宮号暫

任之又上野太守成良親王後醍醐天皇兼之第六皇子也

玉ヲ建武三年二月暫其号ヲ止ラレ畢ス其

後尊氏卿任之ヨリ次第第二兵權強シテ天下

ヲ掌ニニキリテ王道ヲウバイテ政務ハ武家

ヨリ出_イ一天下悉ク武家ノ成敗ニナレリ其子

寶篋院義詮公任之其子鹿苑院義満公

任之義満公十歳ノ時父ニ後レ玉ヘ尺細

川武藏守頼之法名貞忠ツツクシテ

後見レ奉_ツリテ尊氏卿ヨリコノカタ一統セ

ル天下ヲ泰平ニ治ス万民枕ヲ安クセリ頼

之卒去_キノ後義満公ヲゴリノ心出來テ

モヘラク公家ニ攝家ト云フ棟梁アリ

六門跡アリ武家ニ棟梁ナレ万民ノ治法

職原秘

卷之四

王ニ一等階シテ攝家ニ准ジテ大納言ニテラ臣
仕子孫ノ官位大政大臣從一位ニ至リテ武
家ノ棟梁タルベキ家ヲ玉リ玉ヘト 天子
ニ養ヒ侍レハ公方ト云号ヲ下セテ望ノゴトク
勅許アリケレハ此時ヨリ公方ト云号始リ
侍ル也征夷將軍ハ公方家ノ兼官ニナシリ
此時ヨリイヨク將軍ノ任一人ニ歸シテ外
ニソゾムモノチカリキ

一或問曰淳和華學兩院別當并源氏長者
仲院家ニ傳ル由職源氏ニ見ヘタリケルニ公
方家代々兩院ノ別當源氏ノ長者ニナリ玉フイ
シノ時ヨリ公方家ヘウツリ侍也答曰吾子ノ問
ゴトク古ノ源家ニ高貴ノ人村上嵯峨ノ源氏也
義滿公ノ御代ヨリ尊キテ清和源氏ニシテ是
以義滿公コレヲモ請テ兼帶シ侍ル其例ニヨリテ
代々公方家何モ如ク其ニ侍ル也
又問曰牛車兵仗 公方家ニ帶シ玉フヲ如何
答曰牛車ノ隻ハ攝家ニモ勅許アリ是ニ准ジテ
公方家ニモユルサレ玉フ兵仗ノ隻ハ武家兵馬
ノ權ヲ專ラトスルニ兵仗ヲ帶セザレハ惡徒ヲ

退^ヒ久^ク更^ニ不^レ能^ハ是^レヲ以^テ請^フテ^モ元^カレ玉^フ也義滿
 公^ラ公^方ト稱^シ武^家ノ棟^梁ニ成^テ玉^イル公^家有^ル
 職^ニ准^ジ武^家ニモ故^實實^ニ立^テ礼^正キヤウ
 ニトテ夫^下ノ待^ラ十^一位^ニラカキ其^位々^ニ應^ラ
 ジテ其^作法^ヲモリ合^テ後^代ニテ其^禮義^ヲニダ
 サジトテ今^川龍^京太^夫氏^頼小^笠原^兵庫^助長^秀
 秀^伊勢^武藏^守滿^忠此^三人^ニ仰^セ付^ラレテ故^實
 實^書ヲマ^シム名^ニ謂^テ當^家引^法集^三議^一
 統^大夕^紙一^部悉^テ天^下ニヒロ^シテ武^家ノ故^實ノ
 規^模トス武^家ノ故^實ハ此^時ヨリ起^リ書^禮ノ法^ヲ
 モ公^家ノ弘^安禮^節ニ卷^准ジテ公^方ノ十^一位
 禮^節一^部アリ其^外勅^書ニ准^ジテ御^内書^公方
 御^下文^同公^帖同^御教^書官^領奉^書判^何
 モ公^方ノ命^ヲ奉^リテ書^スル也奉^ル人^々ニヨリテ
 其^名カ^レリ其^外遵^行施^行打^渡ナド云^書様
 マリ口^傳万^事ノ作^法天子^ニ一^等ヲ降^レテ名
 付^侍ル公^方ノ御^所ヲ^撰家^門跡^公方^ノ居^如御^所上^殿中^カリソ
 マ^居玉^フ處^ヲモ御^殿御^出ヲ御^成御^退還^ス
 御^上意^上使^上聞^上覽^ナト公^方家^ハ上^ノ字
 ヲ付^テ申^ス也公^方へ參^ルヲ參^勤御^死去^ヲ他^界

藏^源山
 卷^ノ百^一

其外 公方家ノ義龜々多トイヘ

或問曰古ハ武家ノ棟梁ノ臣ヲ執權執事ト

ト云ヘリ此時管領ト号シテ武衛細川畠山ヲ

管領ト云フコノ管領ノ事如何答曰足利尾張

守高經入道道朝ニ義詮御被仰曰高經天

下ノ事ヲ管領セシメテト御申マリヨリ管

領ノ名ハ起レリ愷ニ呼侍ルハ義滿公ノ御代

ヨリ定リケリ義滿公ノ御代ニ細川頼之管領

職ニ任ズ高經子斯波右兵衛佐義將ヲ管

領ニ任ズ斯波ノ家代々右兵衛佐ニ任ズ兵衛ノ

唐名ヲ武衛ト云斯波ノ家ヲ導ニテ武衛ト

称ス畠山尾張守義深ノ弟子右衛門佐

基國管領ニ任ズ此ニ家カワルぐ管領任ズ

ルユヘニニ管領ト云フ

又問四職ト云ハ如何答曰山名一色京極赤

松此四家ノ人ト任スルヨリテ四職ト云問御

相伴衆トハ如何答曰三職四職ノ大名守護

ノ中ニテ其器量仁ヲ撰ニテ御相伴衆ニ居シ

加ヘラル代々ニ至テ相伴ノ仁モカワレリ又問

武衛ノ事 卷之四 十一

公方ノ十一位ト云、如何答曰、御一族大名守護外、様評定御供衆申次番方國人奉行未男也。

公方ノ御直臣ノ衆ハ此十一位ニモル、一ナレ此位

ニ應ジテ武家ノ故實ヲ三立侍也。勝定院義

持義滿長徳院義量義持子普光院義教義持弟

慶雲院義勝義教子慈照院義政義勝弟相

續シテ任之此義政公御代ニ山名宗全細川

勝元宗全此兩人京都ニライテ相戦、既三二十

二年王城寺社諸公家ノ家々悉ク兵火災ニカ

レリコレヲ應仁ノ乱ト云フ本朝ノ記録多クハ此時

焼失シ侍ル也。公方威勢衰テ参勤スル諸侯五ナ

ク武命ヲ用ル國人モ無クシテ我々ニ有テ大ハ小ヲ

トリ強ハ弱ヲ侵シテ日本悉ク戦ノキタト成シ

リ義政公ハ隱居ノ地ヲ東山ニ占テ大智院義

梶義政家督ノ名計ニ其職ニ居侍ル、カキワス

常徳院義尚義政子惠林院義植義視子義政

法住院義澄政知子相續シテ任征夷將軍侍

ト。公方ノ名バカリニテ世ヲ治ル、不能刺義植

義澄合戦ヲ始メ雌雄ヲ争イレカバイヨク

公方家ナキガヨトクニシテ天子モ公方モ安座ノ

恩ニ佳シ玉ハズイワレヤ其下ニル京中ノ人ヲヤ万
松院義晴義植子任之義暉子光源院義輝義晴子

在職十有餘年ニシテ三好義繼松永久通等
殺シ奉其後織田信長公靈陽院義昭ヲ義輝

室町殿モリ立テ征夷將軍ニ任レ侍リ力不義
ニシテスニヨツテ備後ノ輓ヘウツレ侍ル義昭公毛

利輝元ニ扶持セラレ居玉ヒシが大閣秀秀吉公ノ
御代ニ御相伴衆ノ列ニ在リメカスカナル躰ニテ

リ玉フコノヨロノ三井寺ノ圓浦院實相院ノ兩
門主ハ義昭ノ御子也已上各氏將軍ノ子

孫義昭ニ至ルニテ五代ニシテ断絶ス具シ
先代公方十五代ト云又ハ京都將軍氏云

一惣見院信長公右大臣天下ノ兵權ヲ取テ四海
ノ逆乱ヲ鎮メ玉フ天下ヲ六七分キリシタガヘ

懇ク泰平ナラシメシ玉フ時惟任日向守光
秀カ爲ニ弒セラレ玉フ參議信忠信長嫡子同

シク自害シ玉フ信長公ヲ公方ト号スルノ暇ナレ
或問云信長公ハ天下取ト申事理ニカ十八ニヤ

イナヤ答曰天下取ト申事甚理ニカ十八ハ禁
裡毎貞セシメ門跡并諸公家中ニ領知ヲ與

或問云信長公ハ天下取ト申事理ニカ十八ニヤ

へ天下ノ政務ヲ聞玉へ天下取ノ事何ノサリ
ル所カマラシ

又問明智光秀信長公父子ヲ弑シ奉リテ

参内セシムト云云シカラス是モ天下取ト申サヤ

否答曰光秀ハ丹波一國江州坂本計ヲ領

知シテ六月二日ニ信長公御父子ヲ殺シ奉同

月十三日ニ討ラレケルハ暫モ天下ノ政務ヲキ

カズ何ヲ以カ天下取トイワシヤ

一太閤秀吉公ハ卑賤ヨリヨリテ天下ノ兵乱

初ハ平氏ト称ス臣氏公方ノ望在ス故ニ靈

陽院義昭ノ養子ニテリテ公方ノ跡ヲツガント

テ強テ舟ニ義昭ニノ玉へ尼義昭愚昧ニシテ

終ニ養子ニシ侍ルナシ時ニ菊亭右大臣晴

秀公被申ケルハ公方ヨリ貴キハ関白也関

白ニナリ玉へ下諫メ侍レハ秀吉公美引レモイ

テ頃ニ関白職ニ任ジ公武ノ政務ヲキ玉へ

天子ノ御領ヲ増諸門跡諸公家衆へ

新知ヲ與諸侍ニ官位ヲスメ天下ヲ掌中

ニ握玉へ中納言秀吉次生官ス養子ニシテ

関白職ヲムヅリ其ノ身大閤ト号シ日本ノ義ハ
 不及申異朝ニテ追討使ヲ遣慶長三戌年八
 月十八日於伏見城生年六十二歳ニテ他界シ至
 フ関白職タルニヨツテ公方トモ申シ奉ラスミシ
 テ將軍ニ任シ至フ事モナカリキ翌年四月
 十八日勅賜 秀吉ノ廟豊國大明神謚シテ
 神ト祝イ侍リシ也

職原抄 支流卷之四終

門跡并諸寺社

一乙門跡ト申事ハ御門跡ト云コノ口也皇子カ
 ガリヲキロシ玉ニテ親王ノ宣旨ヲ蒙リ釋門ニ
 入玉ハ法親王ト申ス也コレモ四品ヨリ昇玉ヲタ
 トハニ品法親王尊圓ナド、申スゴトク也法親
 王ノ居玉ヲ寺ヲバ宮門跡ト申ス又攝家ノ御
 子門跡ノ寺ニイリ玉ハ攝家門跡ト申ス又ハ
 公方門跡清花門跡ト申シ侍ル也古ハ仁和
 寺御室寛平法皇ノ宇多天皇御寺ナ故ニ僧務ト

号レテ必一品法親王ニ侍ル也今門跡ト申

ス御寺ハ

一仁和寺

佛室云
官門跡

大覺寺

差懸
有官

隨心院

小僧有
持家

勸修寺

山科有
清花

三寶院

醍醐有
也持家

當山修驗者頭

右五箇寺ハ真言宗ニテ東寺ノ門跡也

一圓融院

小原有極
井殿云官

青蓮院

粟田
有官

妙法院 大佛ニ
アリ官

曼珠院

竹内アリ是
故竹内殿上唐

毘沙門堂

東叡山
アリ清花

右五箇寺ハ天台宗也此中カニテ圓融院青蓮院

妙法院ハ山門ノ座主ヲ兼テ故ニ叡山ノ三門跡ト云フ

右三箇寺ハ三井寺ノ三門跡ニテ天台宗也三井寺長

吏ヲカハリクニ持玉フ

一乘院

公方

大乘院

持家

右二箇寺ハ南都ノ兩門ト云法相宗ヲ兼テ

一智息院

淨土宗東
山ニアリ官

一本願寺

東西ニケ寺アリ
清花ニ准ス大僧正至

真正寺

西本願寺下
正僧正迄至

右官門跡ハ四品ヨリ叙レ至イテ僧正ニテラ仕イ玉

フ攝家清花ノ門跡ハ大僧正ニ至リテ法印マデ仕

玉フ也 公方ノ御礼モカワリ有之也院家寺ト

云ハ門跡ノ隱居所ト云心也又トハ若王子ハ聖護

院ノ院家ノゴトキ也

一或問門跡ノ義ハ聞其説其外ニ聖道門ノ山々

寺々多ク其官位ノ相當又ハ身進ノ次第分

明ニ人王へ答曰今時ノ僧正ハ大形權僧正也天

台宗ニ取分多ク其申カニテモ尊勝院江州多賀

若王子ナドハ大僧正マデニ至レル也

八幡愛岩鞍馬ナドハ法印マデニ至ル也

高野山金剛峯寺ト云モ法印マデニ至ル也高野山ノ頭ヲ檢

校ト云前ノ檢校ヲ前官ト云真言宗ニテモ弘法流

義ヲ古義ト云東寺高野ナドノ類也覺鑊流義ヲ

新義ト云紀州ノ根來寺ハ新義ノ本寺タリ然レ

根來寺ハ大閻秀吉公ノ御代ニ滅亡セシヨリ京

ノ智積院并和州長谷ノ小池坊ハ新義ノ兩本

寺也各權僧正迄ニ至ル也其外ハ大形ハ法印

ヲ極官トシ侍ル也

又問修驗俗目先達ノ相當如何答曰本山當

山共ニ法印マデニ至也コトニ法印モ勅任ニアラズ

シテ多クハ山々ニテノ私官也其外田舎ニテ呼

所ノ真言天台ノ法印ハ皆以私官也勅任ノ法

印ニ同座ニモ入ガタレ但人ニヨリ寺ニモヨリテ又

ハキフ勿論也

又問八幡ニ善法寺ト云アリ此位如何公曰善

法寺今ハニツニ分レテ善法寺新善法寺田中

善法寺ト云何レモ法印ニテニ至ル也妻帯也是

故ニ古ハ善法寺通清法印ノ女ハ鹿苑院義滿ノ

御母也外戚ノ戚ヲカリテ其右リハ公方家

工御相伴ナドニイリタル事有今ハ只世ノツ

子ノ法印也

禪宗ノ事尊氏卿夢窓國師ヲ崇敬アリヨリ以

來孫々ノ公方ノ宗ト旨ニレテコトニ法ノ師タルヨツテ

公儀ノ崇敬餘宗ニヨヘタリ當時ハ先代ゴトク法ニ

用ヒカタシ未タク下ニコトハリ侍ル

南禪寺開山普門五山ノ上ノ位トテ五山ノ上也ヨリ上ニ當

御代ヨリ金地院ニ僧録ヲ持侍ルユニ三取分威勢

有是故南禪寺ノ長老ハ五山ノ長老ヨリ敬フベキ

殿勿論也

天龍寺開山ハ夢窓國師後醍醐天皇ノ時相國寺同建仁寺開山ハ

東福寺開山ハ聖一万壽寺開山ハ寶覺

右是ヲ五山ト云テ公方家御支配也五山ノ私官ノ次第ハ藏主首座單寮西堂トヤカ

是ニテハ私官也東堂ヲ長老凡云和尚トモ云
勅任也和尚ニ至リ又ハ紫衣ヲ着スル也五山
ノ出世ハ南禪寺ノ僧録ニコトハリツキリ 公方
へ申上サテ 公方ヨリ舉レ至ヒテ出世ヲトク
ルニ出世スルニ成ガタレ是故ニ當時五山ノ中
ニ出世ノ紫衣十人ニ充ガル也

一十刹ノ事五山ノ下ニ十刹ト云寺有等持寺臨

川寺ノ類也此住持ハ多ク西堂單察也

一問云大德寺妙心寺ハ如何答曰大德寺開以

後興廟 妙心寺 開山関山 右ノ二箇寺ハ

天子ノ御願所ト云ニ 公方家ノ御支配ニラス此

私官ノ次第ハ藏主首座單察トアガリテ西

堂ナレ是ニテ私官也單察ヲ俗呼テ黒衣

ノ長老ト云出世ノ義ハ齒徳ノ鴈ヲカンガヘ

京ノ所司代へ申シ出世ヲトゲ侍ルナリ勅任

也出世ニモ舞住歴住ノカワリ侍凡出世サハ

トクレハ何モ紫衣ヲ着スル也此兩寺勅願寺

タル故ニ出世ナリヤスレ是故妙心寺ニハ今時ノ

長老二百人ニ及ベリ大德寺ニモ十人ニアリ

又ハ龍安寺ト云寺アリ妙心寺ニ准ジテ出世ヲ

トクル也

一曹洞宗如何答曰洞家本寺ハ惣持寺永平寺

トテ北國ニ有此惣本寺ヨリ舉狀ヲ取テ木下

道正取次テ職事へ申レ出世ヲ遂侍ル也惣本

寺ハ紫衣也國ヲ分テ下本寺アリ此ノ寺々住

持ハ紫衣ヲ著セガル也其外ノ寺々ハ猶以紫

衣ヲ著スルフ不能也

一浄土宗ハ如何答曰浄土宗ハ鎮西西山ノ兩

流也鎮西ノ本寺ハ智恩院光明寺俗黒智恩寺

寺俗百方浄花院是ヲ四箇本寺ト云西山流義

本寺ハ光明寺西山ノ栗禪林寺 東山有俗永觀堂云此二箇寺

ハ紫衣ヲ著スル也其外ニモ紫衣ノ寺有鎮西流義

ニ右ノ外ニ紫衣ノ寺猶以多浄土宗ノ紫衣寺ヨ

リテ僧ヨラス其外ノ寺レノ長老ハ并箇年ノ薦

ニヨリテ正上人ナリ并箇年未滿ニテ權上人

ナル西山ハ權正ノ差別ナレ本寺ヨリ時ノ職事

衆へ申入ルレハ長橋ノ局内奏有リテ職事

衆ヨリ倫旨出ル也是レヲ出世ト云也參内

ス凡夏ナレ色衣ヲ許サレ計也

一真宗ハイカン答曰真宗本寺ハ門跡ナレ前

へニ記ス其下ニ院家一家

内陣

縮袈裟

俗座

ト云夏アレハ悉私官ニシテ一宗ノ中ニシテ位

也コレモ法橋法印ニテニ至ルナリ勅任成故私

官ノ法印ナトノ列ニ非ス其人ニヨリ其寺々ニヨ

リテ可敬也

一曰蓮宗俗ニ法花宗ト云イカン答曰日蓮宗

本寺久遠寺

甲別ニヨリ

其外京ニ有ル所ノ本

寺ノ住ハ色表ヲ翁ス法橋法眼法印ニテニ至ル

又寺ヨリ俗姓ニヨリテ權僧正ニテニ至ル有其

下寺ハ皆以官也色表ヲ翁スルハ何モ上

人ト号スル也

一遊行ハ如何答曰本寺ハ藤澤ノ清淨光寺也

代々他阿上人ト云京ニモ數箇寺時衆ノ寺

アレハ無官無位ナレハ評ズルニタラズ其人ノ心持

次第ニタツトムベシ

一律宗ハイカン答曰律宗ノ寺ハ槇尾柵尾ニ有

戒律ヲ守ニシテ人ニ不交無官無位ナレハ不及

評雖然道德ヲタツトシテモラベキ限勿論ナリ

惣シテ禪宗淨土宗一向宗日蓮宗古ハ比叡

以官位ニス、ム夏ナレ出世ナド、云ハ近代ノ

夏也倫旨ニハ今トテモ官位ノ事ハ書載ラレ
 ス禪宗ハ和尚ト侍レハ法印ニ可准淨土宗ハ
 上人ト侍レハ法橋ニ可准是等ノ類ヲ押テ位
 ノ相當ト可知也

一國師ハイカン答曰ク天子ニ佛法ノ師ニナレ
 僧ニハ國師号ヲオクラル國師ノ号ハ多
 ク久謚ニテ存生ノ國師ハ邂逅ノ例也

一大師ハイカン答曰ク大師号ハ何レモ謚也天台真
 言ニ限也最澄ヲ傳教大師圓仁ヲ慈覺大
 師空海ヲ然法大師圓珍ヲ然法大師也

代ノ南光坊大僧正ヲ慈眼大師ト謚ス以上
 五大師バカリ也又問曰國師ヲハ大政大臣ニ准
 スト云フイカン答曰是亦世俗ノ説ナラン佛
 法ノ御師範ニテ侍ルホドニ相國ニ准レテ
 尊ヲ至フ夏モ可有カ法ヲ敬フ時ハ其人ノ位
 ニヨラガルモノナレバイカホドモウヤマイ玉ヘキ一也
 然レ凡國師ヲ相國ニ准ズル證文ヲ其終ニ見
 ガル上ハ分明ニユタヘガタキモノカ
 一又問出世ノ出家ヲバ人ゴトニ長老ト云フ長
 老ハ官カ位カ答曰長老ハ官ニテモ位ニテモ

ナレ長ハ徳ノ長スルノ義称老ハ年ノ老タルノ義
称也齒徳ノタカキ人ヲワキヨリ尊テ呼ル所
ノ号也禪宗ハ和尚浄土宗ハ上人ト可云也自
身ニ長老ト云ハ大キナルアヤマリナリ

一問僧位ヲ俗位ニ准ズル一代々差別有
又ハ僧ノ官位ノ昇進ノ次第イカニ答曰僧
官位昇進ノ次第古ハ

一無位僧ハ八位入位僧ハ七位住位僧ハ六位
滿位僧ハ五位法師位僧ハ四位大法師位僧ハ三位
右僧位ノ五階桓武天皇延暦十七年九月九
日被定也

一傳燈入位ハ七位傳燈住位ハ六位傳燈滿位 修行位
傳燈法師位 從議師 傳燈大法師位 威儀師

法橋上人 律師 法眼和尚位 僧都

一法印大和尚位 僧正
右ハ清和天皇貞觀六年二月十六日被定

一法橋ハ 准五位諸大夫 法眼 准侍從 法印 准少將
權僧正 准參議 正僧正 准中納言 大僧正 准大納言

右ハ後醍醐天皇建武年中定之此相當以今ニ
至マテ專用ト侍也僧正ニ任ズルハ公卿ト同等也

一僧ノ官ト云フ古ハ從儀師ヨリ威儀師ニホリ律師ト
 アガリナレ凡近代ハ律師正權僧都大正僧正大正權少僧正大正權少任
 スル也是ヲ僧ノ官ト云フ僧都ニテハ至レ凡寺ヨリ人
 ニヨラザレバ僧正ニ至ルカカタシ權僧正ニテハ至レ凡
 大僧正ニ至ルハナリガタシ例ノアル寺ハカリ任ズル也
 僧ノ官ニ任スル支ハ本式ハ天台真言バカリ也官ニ
 ハ職掌有真言天台ヲテハ職掌ヲツトムルナ
 ナリガクキユヘニ右ノ兩宗ノ外ハ官ニ任シテ多ク
 位ニノボル也醫者其外ノ剃髮ノ者モ悉ク僧位
 ニ叙スル也醫者ハ法印ニナラハカナラズハ僧ノ位ニ任ジ
 スル也惣ジテ僧俗共ニ位ニハホリヤスク官ニハ任ジ
 難キモノナリ

一僧ノ位ト云フ傳燈法師ヨリ傳燈大法師ニホリ
 法橋ニ叙シケレ凡近代ハ法橋法眼法印ト叙スル
 也是ヲ僧ノ位ト云フ法印ノ位ニテハ至ルニ凡僧正
 官ニ任ズルハナリガタキナリ也是故ニ先例ナキ
 寺ハ多クハ權大僧都ニテナリ僧正ニ至ルハナリ
 ガタキナリ也僧位ニ叙スルハ二十歳ニテ法橋ニナリ
 十箇年アツテ四十歳ニテ法眼ニナリ十箇年ア
 ツテ五十歳ニテ法印ニナリ十箇年ツヅニレテノボル法

也是ヲ任十年ト云、醫者ハ法印ニテ至ル也但
倍臣ハ法眼ニテ有リ但忠功ニヨツテ勅許アルハ
各別ノ事也坊官モ十箇年ノ任也僧正官
ニ至寺々ハ八箇年ヅ、ノ任モアリ二十歳ヨ
リ内ニテ法橋ニナリヌル人ハ五十未滿ニテ法
印ニナルヲモ侍ヘシ

官 律師ハ 位 法橋相當也

官 僧都ハ 位 法眼相當也

官 僧正ハ 位 法印相當也

是ラハ僧ノ官位ノ野分別可ナリ又詳ナリ
口受モアルヘシ今アラワス所ハ當世用ル所ノ僧官

位昇進ノ次第又ハ俗位ニ准スルノ法也

一僧ノ官位ハ得聞ラ又寺社ハイカン答曰吉田

兼連五位ノ侍從也吉田家ハ二位ニテ至ル例有

神祇道管領長上下云事ハ吉田相續シテ帶之也

神祇伯八百河稚高王大副ハ千倉子合ハ少副ハ

伊勢ノ祭主佐ハ吉田ノ兼連兼之賀茂ノ神

主松下ハ三位迄ノ例有北野松梅院ハ沙

門ナレハ不及評住告社務ハ古ハ二位ニテモ昇シ

例アリトイハ近代ハ地下也其外ノ諸社ノ社家位

二叙スバ五位以下ニシテ多ク無位也又問田舎
 ノ社人吉田ニテ任官シ侍ト補任アリト称スコレモ
 位ヒアリヤ答旨吉田ニテ官位ヲ許スベキ法侍ラス
 僧俗共ニ官位ト云モノハ 天子ヨリ出者也今
 時分ノ社人ハ吉田ヘ行テ風折ヲ為帽子ニ狩衣
 フ者スベキ由ヲ許サシ侍ル是ヲ裁許狀ト云風
 折狩衣ヲ許サルバ名ヲ改テ官名ヲ付侍ル在
 悉無官無位也尊ニ足ス但其社又ハ其火ニモ
 寄ベキカタトハバ今時ノ真言天台ノ沙門禁中ニ
 肯取タリト句通ニヒトニ僧俗凡ニ官位ト云ヘルハ
 禁中ニテ上卿ノ奉行ニテ職吏高勢ヨリ出ル
 所ノ宜旨公宣ナクシテ本寺本社ヘ参リテ官
 位ヲスムトイヘルハ愚昧ノ至リ誠ニ耻カキテナ
 ラズヤ或聞日勅官ヲ尊ニテ私官ヲ賤スルハコ
 トニ^多者^也城也^也予モソノ病ヲマスカレガルト云テ咲
 テ去レリ

宮城殿門拾芥鉞日或書云延曆十二年正月
甲午遣使於山背國葛野宇多村地為遷都也
始造山背新宮同年六月庚午令諸國造新宮
諸門尾張羨濃二國造般富門伊福氏也越前
國造羨福門壬生氏也若狹越中二國造安嘉
門海大耳氏也丹波國造倭鑿門猪使氏也但
馬國造藥壁門依伯氏也播磨國造待賢門山
氏也備前國造陽明門若大耳氏也備中備後
二國造達智門丹治氏也阿波國造談大門王
手氏也伊與國造郁芳門達部氏也同十三年

藏原少
卷之三
五
七

殿前

集

集

集

集

集

集

集

集

刑部

護

御

集

集

嘉門大路十丈

臺

部

部

部

朱雀門大路二十丈

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

大舍大路五丈

大舍

大舍

大舍

大舍

大舍

大舍

大舍

內舍所中交省有北門

大舍

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

場

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

宮城指圖

省界各

一條大路弘十丈二尺

北

卷之五

九

御院用

大藏省

大藏省

大藏省

大藏省

大藏省

大藏省

大藏省

大藏省

大藏省

右近衛府

右近衛府

右近衛府

右近衛府

右近衛府

右近衛府

右近衛府

右近衛府

右近衛府

内匠寮

内匠寮

内匠寮

内匠寮

内匠寮

内匠寮

内匠寮

内匠寮

内匠寮

武德殿

武德殿

武德殿

武德殿

武德殿

武德殿

武德殿

武德殿

武德殿

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

皇極院

冬十月廿二日天皇自南京遷北京又或本云
 嵯峨天皇弘仁九年戊戌諸門懸額東面額橘
 逸勢書之南面并談天門弘法大師御手跡也
 西面道風書之天德比人北面嵯峨天皇書之
 給云或記曰弘仁九年戊戌起殿門等額寬弘
 之比依勅參議右大辨藤原行成御修飭羨福
 門額字元大師之手書也件祭文有文粹第十
 三卷或記云元野羨村書之後代道風修飭之
 云或記云大內裏秦川勝宅橘本大夫宅南殿
 前殿橘樹依舊跡殖之見天曆御記櫻村本

是梅也相武天皇遷都之日所被殖也而及美
 和年中枯失仍仁明天皇被改殖樹也橘木者
 橘本大夫之時樹也枝條不改及天德之末云
 見康和二年御記○愚按禁外指圖陽明門且
 兵衛御門待賢門且中御門郁芳門且大炊御
 門且上三門東面也羨福門且生御門且朱雀
 御門且皇嘉門且雅樂寮且上三門南面也談天
 門且馬寮御門且藻壁門且中御門殷富門且上
 三門西面也安嘉門且兵庫寮御門且障殿門且
 不開御門且花山院御出家時自此門出給故

名之達智門。已上三門北面也。上東門曰土御門。在陽明門北。上西門曰西土御門。在殷富門北。豐樂門曰南外大門。在儀鸞門南。陽祿門在安明門北。萬秋門在儀鸞門西。福來門在萬秋門北。儀鸞門在豐樂院南。安明門在儀鸞門東。廣義門在八省院北。永福門在中和院後。昭慶門在永福門東。嘉喜門在昭慶門東。建禮門在嘉喜門東。春花門在嘉喜門東。建禮門在嘉喜門東。宜明門見別圖。馬場殿在豐樂院北。武德殿在內匠寮東。真言院在武德殿東。南中和院在真言院東。職御曹司在桂芳坊東。梨木在大宿直南。大歌所在圖書東。掖禁裏圖建禮門。且青馬陣在兼明門以南。春花門曰左馬陣。或曰左廂。在建禮門東。脩明門曰右馬陣。或曰右廂。在建禮門西。以上三門南面也。延政門曰右廂門。建春門曰左衛門。陣嘉陽門曰左廂門。以上三門東面也。朔平門曰縫殿陣。在玄暉門以北。式乾門曰西廂。在朔平門西。已上一門北面也。宜秋門曰右衛門。在陰明門以西。中和門在宜秋門南。以上二門西面也。遊義門在陰明門北。陰明門在宜秋門

或京以
 卷之五
 廿四

東武德門在中和門東。兼明門在建禮門北。永安門在兼明門西。長樂門在兼明門東。宣陽門在建春門西。玄暉門在朔平門南。徽安門在玄暉門西。安嘉門在玄暉門東。左腋門在春興殿南。右腋門在安福殿南。月華門在安福殿北。孔雀門在弓場殿南。无名門在弓場殿北。仙花門明義門在無名門東。恭禮門在左近陣西。敷政門在溫明殿南。青瑣門在明門在敷政門西。榮明門在紅梅東。日華門在春興宜陽兩殿間。○殿舍者紫震殿也。此

南殿按天曆御記紫震殿秦川勝宅所云九間四面有庇。仁壽殿在南殿北。九間四面。兼香殿在仁壽殿北。九間四面。常寧殿在兼香殿北。九間四面。貞觀殿在常寧殿北。俗云御園殿在此。殿已上五殿起于南行于北。皆卯酉建之。春興殿在日華門南。七間。二面。宣陽殿在日華門北。九間四面。綾綺殿在仁壽殿東。九間。二面。溫明殿在綾綺殿東。七間四面。麗景殿七間四面。宣耀殿在麗景殿北。七間四面。已上六殿起于東南行北東。皆子午建。

武德門 卷之五 十五

之安福殿在彤花門南七間二面。校書殿在月花門北七間二面。清涼殿云中殿。又云御殿七間四面。後涼殿在清涼殿西七間。弘徽殿七間四面。登花殿在弘徽殿北七間四面。已上六殿起于西南行于北西皆于午建之。昭陽舍東五間四面。淑景舍東一在昭陽舍北五間四面。飛香舍在弘徽殿西五間四面。凝花舍在飛香舍北五間四面。襲芳舍在凝花舍北五間四面。同北舍但凝華舍飛香舍不載。弘仁九年勘文後代所造加也。已上

六舍起于南行于北卯酉建之。桂芳坊在湖平門內。花坊在桂芳坊東。蘭林在玄暉門北。御後且北庇東庇御膳宿且西庇中殿且清涼殿在南殿西。常震居也。晝御座夜御殿朝餼石灰壇鬼間二間上御壺稱秋戶臺盤所殿上下侍渡殿御裝物所內侍所。在南殿東后町在南殿北。御醫殿在后町北。戶塲殿校書殿在清涼殿南殿上前瀧口戶。在清涼殿北。黑戶瀧口戶西也。陣座左近在南殿東。日花門內右近在彤花門內。鳥曹司在巽角兵

藏原以 卷之三十一 七

衛陣左在宣明門右在陰明門衛門陣左在建
 春門右在宣秋門白馬陣在春花門南縫殿
 陣在朔平門批柳陣左兵衛陣之由見寬元
 二年四月二日記此外在長生殿內舍人所
 內整所進物所御厨子所御書所內御書所
 大歌所內記所畫所作物所樂所祭所藏人
 所瀧口國史式所校書所藥殿納殿御櫛等
 殿酒殿贊殿矢殿御倉宴松原及大臣宿所
 左右大將宿所左右中將宿所左右將監宿
 所兵衛督宿所同佐宿所頭宿所米女町女

整所守油女官修理內候所木工內候所主殿
 掃部內候所造酒主水宿所等所所依沿置
 略之。按八省院指圖八省院惣號日中臺
 亦日朝堂院其正殿日大極殿亦日最大殿
 天子即位元日等諸司告朔所也當時無八
 省院故用紫震殿也應天門南面外門也三
 間閣五間戶三間長樂門日左廂門在應天
 門東永嘉門日右廂門在應天門西含輝門
 日章德門外門在東朝集堂東章義門日興
 禮門西門在西朝集堂西會昌門日南內門

二間五間。戶三間在應天門以北。章德門。日
 內左廂門。在會昌門。東興禮門。日內右廂門
 在會昌門。西盛化門。在宣政門。南敬法門。在
 章喜門。南宣政門。在通陽門。南章喜門。在顯
 親門。南通陽門。在景福堂。東面顯親門。在延
 體堂。西面永福門。在昭訓門。南廣義門。在光
 範門。南昭訓門。在渾光門。東面光範門。在壽
 成門。西面東福門。在永陽門。內西花門。在廣
 義門。內渾光門。在蒼龍樓。北壽成門。在白虎
 樓。北永福門。日西廂門。在昭慶門。西嘉喜門。
 日東廂門。在昭慶門。東昭慶門。或曰昭義門
 也未詳。蓋北面外門也。此外有宣光門。永陽
 門。禮成門。崇賢門。不老門。延明門。金利門。吉
 德門。高陽門。嘉樂門。開明門。陽德門。青綺門。
 白綺門。逢春門。養秋門。等。諸門依沿畫畧之
 ○大極殿。八省院。正殿也。小安殿。在大極殿
 北。七間四面。蒼龍樓。日龍尾道。東樓上。多。小
 閣。白虎樓。日龍閣道。西樓上。多。小。尾。日。上。二
 樓。各八間。栖鳳樓。日。應天門。外東樓。翔鸞樓。
 日。應天門。外西樓。日。上。二樓。各四間。昌福堂。

在大極殿東南東北上第一堂也。含章堂在昌福堂南第二堂也。兼光堂在含章南第三堂也。明禮堂在兼光南第四堂也。延休堂在大極殿西南西北上第一堂也。含嘉堂在延休南第二堂也。顯章堂在含嘉堂南第三堂也。延祿堂在顯章南第四堂也。東西朝集堂在應天門內會昌門外各九間也。康樂堂在明禮堂內。永寧堂在延祿堂內。明章堂在康樂堂北。修式堂在永寧堂北。此外有清暑堂東華堂顯陽堂觀德堂西花堂永觀堂明儀堂延英堂招俊堂等。但舊內裏圖說詳見于拾芥鈔。然有詳難知者。故不贅註。

當時禁中圖說 舊內裏造營面祿之後制儀尤微微也。且依時世有增減其詳不可得知。今所載當時禁中圖後光明院御宇圖也。**禁裏** 南北百十一間。東西百一間也。**紫震殿** 板敷也。四方板緣也。有賢聖障子。以絹張之。御緣板戶繪東西十一間。南北八間半。此外緣也。南面謂之南殿。元日即位等禮式用此殿。**清涼殿** 板敷四

方緣御上段繪帝鑑圖。御上段與間。四季二之間。四愛堂。陶淵明菊。周茂叔蓮。山谷蘭。林和靖梅。鶴三之間。十雪之圖。四之間。同三之間。下段板之間。竹。虎。金花鳥等也。枚戶。雪。梅。竹。蘆。鴈。雪。梅。竹。蘆。鷺。松。麒麟。雪。松。鳳凰。柴。垣。荊。田。雀。竹。鶴。垣。夕。額。松。鶴。東西十一間。南北九間半。有欄于南面也。謂之御殿。殿上間。東西十間。南北五間。南面昇階而有。小板敷。職原。欽侍醫參。小板敷者是也。繪獅。牡丹。菊。田。鶴。昇殿人之外。地下人不能昇。此殿常御殿。

是天子常居也。東西十三間半。南北十間半。夜御殿。畫御座。皆歸此殿。御障子。繪張。桐。鳳凰。御上段。竹林。七賢。中段。四老。四皓。下段。九老。御學文所。東西六間。南北二十四間半。繪源氏。扇流。小御所。東西十間。南北八間。繪年中行事。上段。龍田。躰也。中段。下段。者與上段同。枚戶。繫船鷺。枚戶。竹。虎。芙蓉。合。麝。香。香。白。蘭。菊。岩。雉。子。枯木。鳥等也。御休息所。上段。西湖圖。二山水。三。三笑。枚戶。色。色。東西五間半。南北五間。紀錄所。東西五間。南北二間。上段。鞠會。

藏原
卷之五
四二

外棟御番所 東西八間 南北四間 半繪梅椿
花鳥 玄關 表三間 入七尺餘 玄關內 南北
十一間 半 東西二間 非藏人間 在其北 東西
三間 南北十間也 內侍所 東西三間 半 南北
五間 半 後有局神巫等居之 一對屋 東西
八間 南北九一間 女房居之 官人居處也 二
對屋 東西十二間 南北八間 半 宮人居之 長橋
房 東西六間 半 南北十四間 掌侍上 廡
居之 是云 為當內侍也 御見間 東西六間
半 南北五間 半 男居 東西十間 半 南北五間 半
物侍部屋 東西四間 南北十四間 半 申間 御
清所 東西十間 半 南北五間 半 常常盛御膳之
處也 御所 東西十三間 半 南北十三間 但有大
縁 是在其基所外也 黒戸 東西四間 南北五
間 此外有小間也 落間 東西三間 南北十
五間 此外有竹縁 內內番所 東西七間 南
北二間 清所 東西四間 南北十間

職原抄支流卷之五終

天和三癸亥年應鐘日

江戸日本橋青物町

藤本兵右衛門
田中理兵衛

板

村田藏書

行

3
2
25

少

印

四十三

